

マネジメント研究科 マネジメント研究科 専門職学位課程 (2012年度入学)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■ベーシック科目	マネジメント総論		1	2	
	閉講	1年			
	経営戦略	2学期	1	2	1
	高橋 秀直	1年			
	マーケティング	1学期	1	2	2
	松田 憲	1年			
	アカウンティング	1学期	1	2	3
	任 章	1年			
	ファイナンス	2学期	1	2	4
	武田 寛	1年			
人材マネジメント	2学期	1	2	5	
鳥取部 真己	1年				
組織とリーダーシップ	1学期	1	2	6	
鳥取部 真己	1年				
■アドバンスト科目	公共経済学		1	2	
	閉講	1年			
	マーケティング戦略	集中	1	2	7
	岩熊 正道	1年			
	知識マネジメント	1学期	1	2	8
	永田 晃也	1年			
	パブリック・マネジメント	1学期	1	2	9
	永津 美裕	1年			
	財務会計	2学期	2	2	10
	任 章	2年			
国際ビジネス・スキル	1学期	1	2	11	
アダム・ヘイルズ	1年				
ロジスティックス	2学期	2	2	12	
斉藤 淳	2年				
問題解決スキル	1学期	1	2	13	
平山 克己	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■アドバンスト科目	チーム・マネジメント 山口 裕幸	集中	2	2	14
		2年			
	環境ビジネス 松永 裕己	1学期	1	2	15
		1年			
	国際経営 王 効平	1学期	1	2	16
		1年			
	地域づくり総論 城戸 宏史	1学期	2	2	17
	2年				
会社法 高橋 衛	1学期	2	2	18	
	2年				
管理会計 大崎 美泉	1学期	2	2	19	
	2年				
■エグゼクティブ科目	ベンチャー・ビジネス 山口 徹也	1学期	1	2	20
		1年			
	戦略的提携と事業創造 森永 泰正	1学期	2	2	21
		2年			
	フィナンシャル・インベストメント 武田 寛	1学期	2	2	22
		2年			
	中国ビジネス 田端 弘道	1学期	2	2	23
		2年			
	環境政策 松岡 俊和	1学期	2	2	24
		2年			
	医療マネジメント 小野村 健太郎	1学期	2	2	25
	2年				
福祉マネジメント 今村 浩司	1学期	2	2	26	
	2年				
ビジネス中国語 森田 三恵子	2学期	2	2	27	
	2年				
自治体政策 南 博	2学期	2	2	28	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■エグゼクティブ科目	モノづくり競争力の強化 杉山 新治	2学期	1	2	29
		1年			
	ソーシャル・ビジネス 松永 裕己	2学期	1	2	30
		1年			
	医療経済 舟谷 文男	2学期	1	2	31
		1年			
	社会保障 工藤 一成	2学期	1	2	32
		1年			
	イノベーション・マネジメント 閉講		2	2	
		2年			
	産学連携と事業創造 城戸 宏史	2学期	2	2	33
		2年			
	公的プロジェクト・マネジメント 網岡 健司	1学期	2	2	34
		2年			
NPO / NGO実践論 平 由以子	2学期	2	2	35	
	2年				
基礎中国語 王 占華	1学期	1	2	36	
	1年				
企業法務とリスクマネジメント 吉浦 初音	2学期	1	2	37	
	1年				
■プロジェクト研究科目	グループ・ディスカッションI 王 効平	1学期	1	2	38
		1年			
	グループ・ディスカッションI 鳥取部 真己	1学期	1	2	39
		1年			
	グループ・ディスカッションI 城戸 宏史	1学期	1	2	40
		1年			
グループ・ディスカッションI 松田 憲	1学期	1	2	41	
	1年				
グループ・ディスカッションI 高橋 秀直	1学期	1	2	42	
	1年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■プロジェクト研究科目	グループ・ディスカッションI	武田 寛	1学期	1	2	43
			1年			
	グループ・ディスカッションI	休講	1学期	1	2	
			1年			
	グループ・ディスカッションI	任 章	1学期	1	2	44
			1年			
	グループ・ディスカッションI	松永 裕己	1学期	1	2	45
			1年			
	グループ・ディスカッションII	王 効平	2学期	1	2	46
			1年			
	グループ・ディスカッションII	鳥取部 真己	2学期	1	2	47
			1年			
	グループ・ディスカッションII	城戸 宏史	2学期	1	2	48
			1年			
	グループ・ディスカッションII	松田 憲	2学期	1	2	49
			1年			
	グループ・ディスカッションII	高橋 秀直	2学期	1	2	50
			1年			
	グループ・ディスカッションII	武田 寛	2学期	1	2	51
			1年			
グループ・ディスカッションII	休講	2学期	1	2		
		1年				
グループ・ディスカッションII	任 章	2学期	1	2	52	
		1年				
グループ・ディスカッションII	松永 裕己	2学期	1	2	53	
		1年				
プロジェクト研究I	王 効平	1学期	2	2	54	
		2年				
プロジェクト研究I	森永 泰正	1学期	2	2	55	
		2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■プロジェクト研究科目	プロジェクト研究I 山口 徹也	1学期	2	2	56
		2年			
	プロジェクト研究I 吉浦 初音	1学期	2	2	57
		2年			
	プロジェクト研究I 鳥取部 真己	1学期	2	2	58
		2年			
	プロジェクト研究I 城戸 宏史	1学期	2	2	59
		2年			
	プロジェクト研究I 松田 憲	1学期	2	2	60
		2年			
	プロジェクト研究I 高橋 秀直	1学期	2	2	61
		2年			
	プロジェクト研究I 武田 寛	1学期	2	2	62
		2年			
	プロジェクト研究I 永津 美裕	1学期	2	2	63
		2年			
	プロジェクト研究I 任 章	1学期	2	2	64
		2年			
	プロジェクト研究I 松永 裕己	1学期	2	2	65
		2年			
プロジェクト研究II 王 効平	2学期	2	2	66	
	2年				
プロジェクト研究II 森永 泰正	2学期	2	2	67	
	2年				
プロジェクト研究II 山口 徹也	2学期	2	2	68	
	2年				
プロジェクト研究II 吉浦 初音	2学期	2	2	69	
	2年				
プロジェクト研究II 鳥取部 真己	2学期	2	2	70	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■プロジェクト研究科目	プロジェクト研究II 城戸 宏史	2学期	2	2	71
		2年			
	プロジェクト研究II 松田 憲	2学期	2	2	72
		2年			
	プロジェクト研究II 高橋 秀直	2学期	2	2	73
		2年			
	プロジェクト研究II 武田 寛	2学期	2	2	74
	2年				
プロジェクト研究II 永津 美裕	2学期	2	2	75	
	2年				
プロジェクト研究II 任 章	2学期	2	2	76	
	2年				
プロジェクト研究II 松永 裕己	2学期	2	2	77	
	2年				

経営戦略【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 経営戦略の理解に必要な基礎的な専門知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ 経営戦略に関わる課題を発見・分析し、解決策を考えることができる。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 経営戦略の知識を用いて、企業経営に関する高い見識と変革する力を持ち続けることができる。
	地域リーダー態度	○ 経営戦略の知識を用いて、地域に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

経営戦略

授業の概要 /Course Description

経営戦略の理論と技法，その応用分析を中心的な内容とした講義を行う。理論とデータ加工によって，分析的に思考するスキルを高めながら戦略的思考力を高めることが本講義の目的である。本講義の到達目標は，経営戦略に関する基本的な理論や考え方を習得し，それらを用いて自分なりの視点から経営戦略を策定することができるようになることである。なお，講義の前半に事業戦略を，後半に全社戦略を扱う。

授業は，ケーススタディを基本とする。事前にリーディングを読み込んだ上で，戦略分析に関する小レポートなどを提出してもらい，受講生と討議する時間を設ける予定である。

教科書 /Textbooks

特に，指定せず，適宜資料を配布する。

(なお，ケースを用いる場合，そのケース代金(1冊千数百円)が追加的に必要になる場合があるので注意されたい)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥村昭博『経営戦略』日経文庫

石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略：論理性・創造性と社会性の追求』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション
- ②競争戦略(1)：業界の構造【Five-Forces分析，補完的生産者】
- ③競争戦略(2)：業界の構造(ケース討議)
- ④競争戦略(3)：差別化【顧客価値】
- ⑤競争戦略(4)：差別化(ケース討議)
- ⑥競争戦略(5)：コスト・リーダーシップ【規模の経済，範囲の経済，経験曲線】
- ⑦競争戦略(6)：コスト・リーダーシップ(ケース討議)
- ⑧競争戦略(7)：ビジネスモデル【価値連鎖，活動システムマップ】
- ⑨競争戦略(8)：ビジネスモデル(ケース討議)
- ⑩全社戦略(1)：事業の定義【企業ドメイン】
- ⑪全社戦略(2)：事業の定義(ケース討議)
- ⑫全社戦略(3)：垂直統合【取引コスト，中間組織，アライアンス】
- ⑬全社戦略(4)：垂直統合(ケース討議)
- ⑭全社戦略(5)：多角化【多角化の種類，PPM】
- ⑮全社戦略(6)：多角化(ケース討議)

なお，授業の内容は，進捗状況や受講生の興味等に応じて，変更する可能性がある

経営戦略【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度30%、小レポート30%、期末レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営に関する知識があることが好ましいが、前提とはしない。
予習や復習には、かなりの時間が必要となる。
詳細は初回の講義にアナウンスする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ マーケティングに関する基礎的理論を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ マーケティング上の課題を適切に把握し分析する力を習得する。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業経営に関して、マーケティングの観点から変革する力を身につける。
	地域リーダー態度	○ 地域のリーダーとしてマーケティングに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

マーケティング

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

本講義は、コトラーやドラッカー等の提唱するマーケティングの基本理論の理解を目指します。そのうえで消費者行動とマーケティングに関わる心理学と行動経済学の理論を概観し、より良い消費者像やマーケティング戦略を理解し、提案することを目的とします。マーケティングは販売活動に留まるものではありません。マーケティングとは、需要者の欲求を満たす価値を供給者が提供し、需要者はそれに対して対価を払うことを意味します。すなわち、よりよいマーケティング戦略には、より深い人間理解が重要であると言えます。

教科書 /Textbooks

講義ごとに資料を紙面配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ フィリップ・コトラー, ケビン・レーンケラー 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 第12版』 丸善出版 2014年 ¥9180
 - ・ 石井淳蔵, 栗木契, 嶋口充輝, 余田拓郎 (著) 『ゼミナール マーケティング入門 第2版』 日本経済新聞出版社 2013年 ¥3200
 - ・ 石井淳蔵, 廣田章光 (編著) 『1からのマーケティング』 中央経済社 2009年 ¥2400
- 他にも、講義内で適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① マーケティングとは：ガイダンスと授業の概観，マーケティングと人間心理
- ② マーケティングの基本要素：4Pと4C，STP
- ③ 市場分析：BtoBとBtoC，3C，5F，PEST分析，SWOT分析，RFM分析，ダイレクトマーケティング
- ④ 価値と購買行動：顧客にとっての価値，AIDMAとAISAS，DAGMAR理論，ハワード・シエス・モデル
- ⑤ 消費者行動に関わる人間の特性1：知覚と感性，多感覚統合
- ⑥ 消費者行動に関わる人間の特性2：選択的注意と記憶
- ⑦ 消費者行動に関わる人間の特性3：判断と意思決定，認知バイアスとヒューリスティクス，直観と選択
- ⑧ 新商品のマーケティング：新商品開発プロセス，創造的思考とイノベーション，SERVQUALモデル
- ⑨ マーケティングとブランド：ブランドの基本要素と機能，広告戦略とブランド構築
- ⑩ マーケティングリサーチ：SD法とIAT，統計的仮説検定，回帰分析と相関分析
- ⑪ 消費者行動に関わる人間の特性4：単純接触効果と知覚的流暢性，親近性と新奇性，ノスタルジアとレトロマーケティング
- ⑫ 消費者行動に関わる人間の特性5：感情とコミュニケーション
- ⑬ 消費者行動に関わる人間の特性6：説得と態度変容
- ⑭ マーケティングと脳：ニューロ・マーケティング
- ⑮ ケーススタディ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内小レポート..60%、レポート..40%

マーケティング【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業後には、必ず授業の復習をおこなってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドラッカーの言うように「マーケティングが目指すものとして、顧客を理解し、顧客に製品とサービスを合わせ、おのずから売れるようにする」ためにも、必ずしも効用を最大化するような合理的な判断を行わない人間の心理にも注目していきたいと思います。

キーワード /Keywords

マーケティング，認知心理学，行動経済学

アカウンティング【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	◎ 会計業務に関する実践的な知識を修得し課題に取り組むことができる。
	実践知識	○ 理論的な知識を実践可能な知識に落とし込むことができる。
技能	分析解決技能	○ 課題に対する観察能力と定量的な分析能力を習得している。
	実務技能	○ 実務的な簿記会計の、初歩的な技能を身につけることができる。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 経営倫理なかつく会計倫理の観点を得、粉飾のリスクを知る。
	企業変革態度	○ 会計処理とシステムの効率化、有効化促進のための視点を得る。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

アカウンティング

授業の概要 /Course Description

アカウンティングは、ビジネス世界における経営情報伝達のための共通言語である。本講座にあってはビジネススクールの履修者に期待される水準の財務会計（すなわち、ステークホルダーに向けた外部報告会計）の基礎知識を学ぶ機会が与えられる。まずは大学学部における財務諸表論と重なりあう点を確認してゆくが、その後は財務諸表分析、さらには企業のディスクロージャー戦略にまで考察を加えてゆく。講義コンテンツにあっては、ある程度（英文）カタカナの会計用語のリテラシーが得られるよう、デザインされている。本講座の到達目標は、受講後、修了者が、企業の財務報告とその制度に実際に興味を持ち、必要に応じ財務諸表に示された主要な報告数値の意味を解釈、分析できるようになることである。

教科書 /Textbooks

任 章 著『アカウンティングと財務諸表分析』（第9版、2016年3月刷）
（初回の教室にて無償配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロバート・アンソニー / レスリー・パウルマン著 西山茂監訳 (2007年)『アンソニー会計学入門』 東洋経済新報社 (いわゆる英文会計に馴染むために推薦する基本書。ただし購入は任意であり、授業にては使用しない。)

他、簿記の学習をされたことがない人は、日商簿記検定3級程度の参考書 (たくさん出ている本のうちから、よろしければご自分で適宜選んで) をご自身で学習してみてください。

アカウンティング【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

主として以下のコンテンツを、各々モジュールとして積み上げて行く（但し、プレゼンテーションの時間をとる必要もあり、講義順は大きく変わることがある）。

①オリエンテーション：本講座の領域と目的、課題について。

【オリエンテーション】

②企業とアカウンティング：会計の役割と職能について（なぜ今、あえて「会計」を考えなければならないのか？）。

【会計の役割と職能】

③会計原則（GAAP）とは何か：特に米国基準（US-GAAP）と国際基準（IFRS）について。

【GAAP】

④バランスシートの機能について。

【B/S】

⑤P/Lの機能について。

【P/L】

⑥キャッシュフロー計算書の作成方法とその機能について。

【キャッシュフロー】

⑦簿記とアカウンティング・サイクルの一巡について。

【アカウンティング・サイクル】

⑧決算修正：アクルーアル処理とその会計倫理上の限界について。

【アクルーアル】 【アグレッシブ・アカウンティング】

⑨ディスクロージャー：その制度と脚注情報について。

【ディスクロージャー】

⑩情報信頼性の担保方法：監査報告書について。

【監査】

⑪財務諸表分析の基礎的アプローチ方法について。

【財務諸表分析】

⑫年次報告と投資家向広報（IR）について。

【アニュアルレポート】

⑬隣接領域と意思決定会計への展望について。

【意思決定】

⑭MBA アカウンティングのWrap-Up.

【MBA】

⑯アドバンスト財務会計への展望

【財務会計】

...以上のモジュールを、受講者の意欲とニーズを量りつつ、ウェイト配分を微調整しながら講義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートそのものの質（15%程度）、プレゼンテーションの積極性やディスカッションに際しての貢献度（15%程度）、期末試験の成績（70%程度）、を適宜ウェイト付けし、総合的に（100%にして）判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部生が学ぶ簿記論の授業等とはアプローチが全く異なります。特に簿記会計の知識経験がなくとも、授業内容は十分に理解できると思います。英語の専門用語を多く引用しますが、カタカナで理解してもらえますので、英語力も不問です。その他、必要なことはその都度、教室にて事前に連絡します。

配布プリント等の教材は、各回、毎回教室に持参してきてください。

授業外学習：

（事前学習）初回を除き、教員が（教室内あるいは学習支援サイトで）指示をする教科書内指定の範囲を閲覧しておいてください。（事後学習）配布レジュメに目を通し、授業でカバーした範囲を復習し、わからない箇所は次回気軽に質問してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員は一方通行の講義をするのではなく、双方向のコミュニケーションをとりたいと考えています。そのためにも、履修者がテーマを選んで自発的にプレゼンテーションをする機会を設けたいと考えています。

キーワード /Keywords

上記の中でも特に、簿記、GAAP、IFRS、B/S、P/L、キャッシュフロー計算書。

ファイナンス【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	ファイナンスに関する専門知識を修得している。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	ファイナンスに関する定性的、定量的な分析能力を習得している。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	企業経営に関して、ファイナンスの観点から、変革する力を持っている。
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとしてファイナンスに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

ファイナンス

授業の概要 /Course Description

企業経営や地域リーダーに必要なファイナンスの知識と分析能力を修得する。具体的には、①～⑤では、ファイナンスとは何かを学び、組織の目標とガバナンスや、ファイナンシャル・プランニングについて学ぶ。⑥～⑩では、現在価値分析を理解し、ファイナンスの意思決定について学ぶ。⑪～⑬では、企業の資金調達と資本構成について学ぶ。

到達目標は以下のとおり。①ファイナンスの基礎知識を身につけ、ファイナンシャル・プランニングができるようになる、②ファイナンス理論を理解し、企業や家計についてのファイナンスの意思決定ができるようになる、③企業の資金調達と資本構成についての理論を理解し、分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

ブリーリー&マイヤーズ&アレン著、藤井真理子・国枝繁樹（監訳）（2014）『コーポレート・ファイナンス（第10版）上』、『同 下』日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ボディ&マートン&クリートン著、大前恵一朗訳、（2011）『現代ファイナンス論 原著第2版』ピアソン
- 砂川&川北&杉浦著（2008）『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社
- 砂川&川北&杉浦&佐藤著（2013）『経営戦略とコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社

ファイナンス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①企業の目標とガバナンス(1)イントロダクション
【ファイナンスの定義】【投資判断】【資金調達に関する決定】【株式会社】
- ②企業の目標とガバナンス(2)財務担当者の役割と資本の機会費用
【金融システム】【資金循環】【金融仲介の機能】【投資のトレードオフ】
- ③企業の目標とガバナンス(3)株式会社の目標
【価値の最大化】【経営者】【株主】【利害関係者】【エージェンシー問題】【コーポレート・ガバナンス】
- ④ファイナンシャル・プランニング(1)
【ファイナンシャル・プランニングのプロセス】【ファイナンシャル・プランニング・モデルの設計】
- ⑤ファイナンシャル・プランニング(2)
【成長と外部資金調達の必要性】【運転資本管理】【流動性と現金計画】
- ⑥現在価値の計算方法(1)
【将来価値】【現在価値】【収益率】【資本の機会費用】【NPV】【IRR】
- ⑦現在価値の計算方法(2)
【永久債】【成長型永久債】
- ⑧純現在価値とその他の投資基準
【NPVルール】【IRRルール】【投資回収ルール】【相互に排他的なプロジェクト】
- ⑨リスクと資本コスト
【WACC(ワック)】【CAPM(キャップエム)】【株主資本コスト】【ベータ】
- ⑩プロジェクト分析(1)
【感応度分析】【シナリオ分析】【損益分岐点分析】【営業レバレッジ】
- ⑪プロジェクト分析(2)ケース
- ⑫企業の資金調達の概要
【内部資金】【株式】【負債】【金融市場】【金融機関】
- ⑬企業はどれだけ借り入れるべきか
【支払利子の節税効果】【財務上の困難】【トレードオフ理論】【ベッキング・オーダー理論】【行動ファイナンス】
- ⑭企業の資金調達と資本構成:ケース
- ⑮まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度 30パーセント
課題の提出 70パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本経済新聞を購読して、ファイナンスの知識を活かし自分の考えを持って批判的に読んでください。
課題をすらすら解けるようになるまで復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人材マネジメント【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○				

授業の概要 /Course Description

企業戦略達成に向けた人材マネジメントの実践の基礎を学ぶ。企業の人材マネジメントを構成する各機能にまつわる理解を基礎に、それらを結合して企業の人材マネジメントシステムを作り上げるための視点の学習を進めていく。各講義回では、ミニ・ケースや雑誌・新聞記事を読み、あるいは映像を見て事例分析やケース・ディスカッションを行い、人材マネジメントにまつわる基礎的な諸理論・枠組みの理解と実践力の向上を図る。

本講義の到達目標は、人材マネジメントを実践するうえでの基礎的な知識を習得することである。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布する。なお、ケース教材を用いる場合、そのケース代金（1冊千数百円）が追加的に必要になる場合があるので注意されたい。なお、企業の人材マネジメントについての初学者は、参考書のいずれかの通読を強く推奨する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

守島基博『人材マネジメント入門』日経文庫,2004年。
高橋俊介『人材マネジメント論 新版』東洋経済新報社,2006年。
フェファー『人材を活かす企業』翔泳社,2010年。
今野浩一郎&佐藤博樹『人事管理入門<第2版>』日本経済新聞社,2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- #1 ガイダンスと戦略的な人材マネジメント(1)【SHRM、戦略人材】
- #2 フロー・マネジメント(1)【人材像、人材ポートフォリオ】
- #3 フロー・マネジメント(2)【採用マネジメント】
- #4 人材育成(1)【OJT、Off-JT、知的熟練】
- #5 人材育成(2)【ジョブ・ローテーション、サクセッション・プランニング】
- #6 評価・報酬マネジメント(1)【社員格付け制度、職能資格制度】
- #7 評価・報酬マネジメント(2)【能力主義、成果主義】
- #8 評価・報酬マネジメント(3)【MBO、ピア・レビュー】
- #9 評価・報酬マネジメント(4)【手当、表彰】
- #10 フロー・マネジメント(3)【定年、アウトブレースメント】
- #11 労使関係【集团的労使関係、個別的労使関係】
- #12 戦略的な人材マネジメント(2)【SHRM、人材像、HRMシステム】
- #13 戦略的な人材マネジメント(3)【SHRM、企業変革】
- #14 戦略的な人材マネジメント(4)【SHRM、HRMシステム設計】
- #15 人材マネジメントの役割【CHO】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度40%、期末レポート60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、宿題として予習教材と問いを指定する。また予習向けに参考書の該当章を指定するので、それらに対する予習をしっかりと行うこと。また、講義で理解が進まなかった点について参考書を用いて復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

組織とリーダーシップ【夜】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、組織とイノベーションにまつわる理論・枠組みを学ぶ。コースの前半ではミクロ組織論を中心とした理論基盤の学習を行う。特に、ミクロ組織分析については、統計的な分析手法の基礎を実習する。コース後半では、マクロ組織論と、企業の変革や新商品創出にまつわるイノベーション・マネジメントについての学習を行う。各講義回では、ミニ・ケースや雑誌・新聞記事を読み、あるいは映像を見て事例分析やケース・ディスカッションを行い、基礎的な諸理論の理解と実践力の向上を図る。
本講義の到達目標は、組織マネジメントとイノベーション・マネジメントを実践するうえでの基礎的な知識を習得することである。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配布するが、ロビンス『組織行動のマネジメント(新版)』を教科書に準じた参考書として扱う。なお、ケース教材を用いる場合、そのケース代金(1冊千数百円)が追加的に必要になる場合があるので注意されたい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ・ロビンス著,高木晴夫監訳『組織行動のマネジメント(新版)』ダイヤモンド社,2009年.
- ・金井壽宏『経営組織』日経文庫,1999年.
- ・金井壽宏『リーダーシップ入門』日経文庫,2005年.
- ・沼上幹『組織デザイン』日経文庫,2004.
- ・延岡健太郎『MOT"技術経営"入門』日本経済新聞社, 2006年.
- ・近能善範・高井文子『イノベーション・マネジメント』新世社,2011年.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【経営学、組織行動論】
- 2回 個人と集団(1)【合理的な意思決定】
- 3回 個人と集団(2)【公正性】
- 4回 個人の特性(1)【性格特性、Big5】
- 5回 個人の特性(2)【適性検査】
- 6回 モチベーション(1)【モチベーション、欲求階層説】
- 7回 モチベーション(2)【期待理論、目標設定理論】
- 8回 リーダーシップ(1)【リーダーシップ、基本二次元】
- 9回 リーダーシップ(2)【チーム】
- 10回 イノベーション・マネジメント(1)【組織能力、コア技術】
- 11回 イノベーション・マネジメント(2)【創造性】
- 12回 マクロ組織(1)【機能別組織、事業部制】
- 13回 マクロ組織(2)【企業文化】
- 14回 リーダーシップ(3)【変革型リーダーシップ】
- 15回 組織のイノベーション【組織変革】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度40%、小レポート20%、期末レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、宿題として予習教材と問いを指定するので、それらに対する予習をしっかりと行うこと。また、講義で理解が進まなかった点について参考書を用いて復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング戦略【夜】

担当者名 岩熊 正道 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 実践的なマーケティング活動を理解し、使いこなすための知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	◎ 課題に応じたマーケティング戦略を構築することができる力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 経営上の課題を発見し、マーケティング活動によって解決する力を修得する。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

マーケティング戦略

授業の概要 /Course Description

「マーケティング戦略」は経営戦略の中心を占めており、組織の理念・目的、トップの哲学、人生観、世界観によって規定され、環境への適応が強く求められるものと認識している。受講済みのベーシック科目「マーケティング」の知識を前提に、個別組織（企業、非営利法人や自治体）のユニークな「マーケティング戦略事例を交えて議論していく。FACo事業（クールジャパンをビジネスに）の事例を紹介し、「常若（とこわか）」を意識した新しいマーケティングを学習する。

集中講義による開講であるため、90分・15コマの講義を各コマ自己完結の形ではなく、以下4つの部分に区切って進めていく：①基本的枠組み、②自らの提案、③企業・自治体の事例紹介、④FACoの紹介。講義の進行に当たっては、受講者との討論方式を一部取り入れる予定。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

マーケティング戦略【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① メディア（報道放送業）と「マーケティング」との接点（自己紹介を兼ねて）
【メディアにとっての市場】【メディア事業局の業務内容】【TVマーケティング】【メディア営業】
- ② マーケティング戦略の基本的枠組み
第4次産業革命を見据えた
【セグメンテーション】【ターゲティング】【ポジショニング】【マーケティング・ミックス】
デジタル化第2の波 IoT
- ③ 戦略立案に用いられる代表的な技法
【SWOT分析】【3C】【4P】【知識と情報の違い】ほか
- ④ マーケティング（戦略）の成否と上層経営管理職のあり方
【理念・哲学】【人生観・世界観】【情熱・拘り】
- ⑤ 「常若」、新しいマーケティング
HOWマーケティングからWHYマーケティング
【時流・時代の変化への順応】【感情と理性】【リアルとヴァーチャル】【創造力と妄想力】
- ⑥ 「常若」、新しいマーケティングII
【企画力、プロデュース力】【無形から有形にする】【プレゼンテーション力】
- ⑦ 元気企業の事例学習I：A社
【B to B】【グローバル範囲に及ぶSCM】
- ⑧ 元気企業の事例学習II：B社
【B to C】
- ⑨ 元気企業の事例学習III：C社
【B to B to C、繋げる】【元気・健康・美をビジネスに】
- ⑩ 地方都市のブランディング
【福岡市の取り組み→アジアのリーダー都市?!】
- ⑪ 地方創生のブランディング
【北九州市の売り→世界の環境首都?!】
- ⑫ FACo事業における「マーケティング」I
【クールジャパンをビジネスに】【協賛者開拓】
日本発標準「グローバルスタンダードからニッポンスタンダード」
「コネクトジャパン」
- ⑬ FACo事業における「マーケティング」II
【アジアを代表するコレクションへ】【日本のコンテンツでアジアへ】
- ⑭ すべてのHOWはWHYのために
【WHY国家日本を目指す】
- ⑮ 総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート50%、討論への参加度・貢献度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

未配布の放映映像を撮影・録音することをご遠慮ください。
授業後には、授業の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の質問を歓迎します

キーワード /Keywords

知識マネジメント【夜】

担当者名 永田 晃也 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	知識変換モデルを修得する。
	実践知識	○	「知識共有と創造」に関する場の設計を理解する。
技能	分析解決技能	○	場の動態分析と活性化スキルを習得する。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	自社における知識創造経営の実践を実現する力を身につける。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

知識マネジメント

授業の概要 /Course Description

資本ストックや労働などの生産投入要素の拡大による成長が限界に達した現在、我々は、知識が最も重要な資源となる「知識社会」の到来に直面している。これに伴い、近年の組織論の研究領域では、組織を情報処理システムとして見る伝統的なパラダイムを超えて、知識を創造する主体として組織を捉える新たな理論が提唱されている。また、個人の知識を組織的に共有・活用しながら知識を創造する手法の体系化を指向する「ナレッジ・マネジメント」が、急速に普及してきた。

本講義は、これらの理論と経営手法を包括的に修得し、経営資源としての知識の創造、活用および蓄積に関する戦略的な指針を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 野中郁次郎・竹内弘高『知識創造企業』東洋経済新報社、1996年
- ・ 野中郁次郎・泉田裕彦・永田晃也編著『知識国家論序説』東洋経済新報社、2003年
- ・ 杉山公造・永田晃也・下嶋篤・梅本勝博・橋本敬編著『ナレッジサイエンス(改訂増補版)』近代科学社、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①序論：経営資源としての知識
- ②組織的知識創造の理論(1)「情報処理」から「知識創造」へ
- ③組織的知識創造の理論(2)リーダーシップと知識創造のイネーブラー
- ④知識創造プロセスの検証(1)技術的イノベーションにおける知識創造
- ⑤知識創造プロセスの検証(2)パブリックセクターにおける知識創造
- ⑥ナレッジ・マネジメントの方法(1)ナレッジ・マネジメントの導入
- ⑦ナレッジ・マネジメントの方法(2)知識移転と知識共有
- ⑧ナレッジ・マネジメントの方法(3)発想支援と情報技術の利用
- ⑨ナレッジ・マネジメントの方法(4)知識資産の概念と計測
- ⑩ケース討論(1)
- ⑪ケース討論(2)
- ⑫ケース討論(3)
- ⑬総合討論
- ⑭課題レポートのプレゼンテーションとディスカッション
- ⑮課題レポートのプレゼンテーションとディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートとプレゼンテーション50%、ケース分析シート20%、ディスカッションへの貢献度30% なお4回以上の欠席は不可とする。

知識マネジメント【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布資料は熟読して次回講義に臨むこと。ケース討論に用いる資料は、分析シートとともに事前配布するので、資料の内容をよく理解した上で、分析シートに所要事項を記入して授業当日に提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

見えざる資産である知識の所在を洞察するための視点と、新たな知の創造を担うリーダーシップを身に付けていただくことが本科目の狙いです。皆さんの積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

知識創造、ナレッジ・マネジメント、SECIモデル

パブリック・マネジメント【夜】

担当者名 永津 美裕 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	公共セクターの特性と仕組み、制度の専門的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	公共セクターの機能、役割などについて、事例などを通じて調査分析できる。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	公共性の意義を十分理解し、公的業務に従事する職業倫理を有する。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	公的課題の解決に積極的に取り組むリーダーシップを身につける。
	国際協調態度		
		パブリック・マネジメント	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

国、地方ともに財政難に直面するわが国では、従来の行政を中心とする公共経営の限界が明らかになりつつあり、90年代後半から新たな行政手法としてNPM（ニュー・パブリック・マネジメント）の導入が推進されている。市場の活用、顧客主義、現場への分権などの考え方に基づき行政の経済性や効率性を重視するNPMは一定の成果をあげているが、サービスの受け手ではなく主権者としての市民に着目して、NPOなどの市民セクターによる新しい公共の担い手など多元的な主体による公共経営やガバナンスのあり方が問われている。そのため、国や地方自治体、医療・教育等の公益団体、企業の公共的役割、市民セクターのあり方を幅広く学ぶ。そしてNPMの理論や特性、行財政改革手法、公共の担い手としての責務、職業倫理等を学び、公益団体、企業まで含めた公共経営やNPMを超えた福祉や教育の分野等での市民セクターとの公民域協働による新しい公共空間の創造や社会的共通資本、ソーシャルキャピタル等について、学生の皆さんとの討論を通じて今後の展望を探る。

教科書 /Textbooks

授業の際に、適宜必要な資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『非営利組織の経営』（1991年）ドラッカー ダイアモンド社
『日本の公共経営』（2014年）外山公美等 北樹出版
『非営利法人経営論』（2014年）岩崎保道 大学教育出版

パブリック・マネジメント 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① パブリックマネジメント総論 Ⅰ
【パブリックセクターの特性、歴史的経緯、社会的変化、ソーシャルキャピタルの考え方】
- ② パブリックマネジメント総論 Ⅱ
【公共セクターの役割、公共セクターの職業倫理】
- ③ パブリックマネジメント総論 Ⅲ
【NPMの理論背景と基本的考え方】
- ④ 課題議論
【学生による発表、論議】
- ⑤ 公益事業（企業等）
【特性、医療、教育等】
- ⑥ 公益法人・NPO制度
【NPOなど市民セクター】
- ⑦ パブリック組織の組織・人材マネジメント
【わが国の人事制度の特徴】
- ⑧ パブリック組織の財政の仕組み Ⅰ
【国・地方の予算・決算制度】
- ⑨ パブリック組織の財政の仕組み Ⅱ
【国・地方の財政分析】
- ⑩ パブリックサービスの改革手法 Ⅰ
【PPP】【民間委託】
- ⑪ パブリックサービスの改革手法 Ⅱ
【独立行政法人】【指定管理者】
- ⑫ パブリックサービスの改革手法 Ⅲ
【第三セクター・外郭団体】
- ⑬ パブリックサービスの改革手法 Ⅳ
【PFI】
- ⑭ 課題議論・ゲストスピーカー
【特定テーマによる議論】
- ⑮ まとめ
【多様な主体による新しい公共、社会的共通資本の構築】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、課題に対するプレゼンテーション（70%）、授業の状況（質疑、意見、発表等 30%）をもとに総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、指定する図書や参考資料等を読んで事前知識を得るとともに、授業終了後においては自主的な復習を行い、さらに理解を深めるようにすること。
なお、次回の授業の冒頭で、前回授業の主要な内容について学生に理解の確認を行うこととする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生の皆さんの活発な議論や質疑を期待します。

キーワード /Keywords

公益、NPM、社会的共通資本、

財務会計【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○				

授業の概要 /Course Description

ベーシック科目であるアカウンティングの知識を基に、本講座では財務会計領域の知識を幅広く積み上げ、意思決定、証券市場、さらには公認会計士による情報保証の問題を、末広がりな考察対象に加えてゆく。本講座は慣習的な「会計学の講義」を展開することを意図するものではない。むしろ、刻々と変化するビジネス環境の下で、意思決定者は会計情報をいかに分析し、解釈し、自らの行動を選択するものか、そうした事柄を自発的に考えさせる機会を提供する。思考プロセスにあつてはむしろ、国際会計基準 (IFRS) の考え方を学び、その発想方法を援用することもあろう。

本講義の到達目標は、履修者に財務諸表分析の視点を与え、受講終了後、受講者が決算報告書 (アニュアル・レポート) を分析、解釈、評価し、意思決定に必要な情報を、自在に取り出せるようになることである。

教科書 /Textbooks

任 章著『アカウンティングと財務諸表分析』
(ベーシック科目たるアカウンティングの授業で配布したテキストを継続使用します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(一例として)
田中建二著『財務会計入門』中央経済社
あずさ監査法人編『有価証券報告書の見方・読み方』清文社
(但し授業にては用いず、購入は任意である)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ベーシックの「アカウンティング」講座の応用編として、主として以下のコンテンツに関わる理解を深め、各々モジュールにして組み立て、財務会計全般の知識の体系化を図る (プレゼンテーションの時間などを要するため、講義順は変わることがある)。

①オリエンテーション: 本講座でカバーされる領域と目的、課題等について。

【オリエンテーション】

②財務諸表書式の連関関係について: 未実現損益の処理と包括利益の表示など。

【財務諸表のフォーマット】

③キャッシュフロー計算書の作成とその分析方法について。

【キャッシュフロー】

④利益操作の意図と報告利益品質について。

【アーニングズ・マネジメント】

⑤SFAS、IFRS等、会計基準 (GAAP) の各論について。

【GAAP】【IFRS】【SFAS】

⑥財務諸表分析とその応用: 企業価値評価への展望。

【財務諸表分析】

⑦(英文)アニュアル・レポートのコンテキストの理解。

【アニュアル・レポート】

⑧SEC行政処分事例の実際について。

【SEC】

⑨財務諸表の信頼性保証とリスクについて。

【監査】

⑩バランスシートと会計的論点について (減損会計、時価会計等)。

【B/S イシュー】

⑪P/Lと会計的論点について。

【P/L イシュー】

⑫証券市場規制と企業のディスクロージャー行動について。

【ディスクロージャー】

⑬会計情報と投資意思決定について。

【投資意思決定】

⑭財務会計のWrap-up。

【財務会計】

⑮財務会計の知識のアプリケーションと応用。

【アプリケーション】...以上に代表されるテーマについての理解を、受講者の知識経験のレベルにあわせて深めて行く。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの質(15%程度)、プレゼンテーション [= 自ら選択した企業の財務諸表分析] の積極性やディスカッションに際しての貢献度(20%位)、期末試験の成績(65%位)、等を適宜ウエイト付けし、総合的に100%にして判断します。

財務会計【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度伝えます。毎回配布済プリント等も、忘れず毎回、授業に際し持参してください。簡易な電卓も持参されると良いでしょう。

財務諸表分析の講座ではありますが、計算上の分析にとどまらず、結果的には会計の機能や役立ちを、幅広く俯瞰する科目になります。なお（事前学習）は、あらかじめ指示をしたテーマや箇所につき教科書の該当頁に目を通しておいていただくこと。（事後学習）は、用語と概念をおさらいし、さらに計算と分析方法について、今一度復習するよう、求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員は、履修者が自らの会計的視点を確立するための、ファシリテーターとしての役割を果たします。履修者自身が選んだテーマで、プレゼンテーションをしていただく機会を設けます。

キーワード /Keywords

上記の中でも特に、GAAP、IFRS、B/S、P/L、財務諸表分析、意思決定。

国際ビジネス・スキル【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ ビジネスに必要な英語のスキルを習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 英語でビジネスプレゼンテーションができる力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	○ 国際的な環境において相互理解し、コミュニケーションが行える力を修得する。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

国際ビジネス・スキル

授業の概要 /Course Description

国際ビジネス・スキル offers students the opportunity to develop the skills necessary to make successful business presentations in an international environment. While the emphasis will be on technique a strong focus on enhancing English-language skills will be maintained throughout. It is hoped that this course will enable students to make professional, persuasive and entertaining business presentations which feature the usage of accurate and appropriate English.

教科書 /Textbooks

Nancy Duarte, HBR Guide to Persuasive Presentations (Harvard Business Review Guides), (Harvard Business School Press, 2012)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Rabb, Margaret Y., The Presentation Design Book : Tips, Techniques and Advice for Creating Shows and More (Chapel Hill, NC : Ventana Press, 1993) 図書館 書庫 4 F (600-700), 674.6/R11 ○

Zelazny, Gene, Say It With Charts : The Executive's Guide to Visual Communication (New York : McGraw-Hill, 2001) 図書館 書庫 4 F (300), 336/Z2 ○

国際ビジネス・スキル【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 Introduction
Audience
2回 Understand the Audience's Power / Segment the Audience
3回 Define How You'll Change the Audience / Find Common Ground
Message
4回 Define Your Big Idea / Anticipate Resistance
5回 Build an Effective Call to Action / Balance Analytical and Emotional Appeal
Story
6回 Apply Storytelling Principles / Create a Solid Structure
7回 Beginnings, Middles and Ends / Use Metaphors as Your Glue
Media
8回 Choose the Right Vehicle for Your Message / Determine the Right Length for Your Presentation
9回 Persuade Beyond the Stage / Share the Stage
Slides
10回 Think Like a Designer / Choose the Right Type of Slide
11回 Clarify the Data / Turn Words into Diagrams
Delivery
12回 Rehearse Your Material Well / Communicate with Your Voice
13回 Get the Most Out of Your Q and A / Student Presentations 1
Impact
14回 Spread Your Ideas with Social Media / Student Presentations 2
15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of homework assignments - 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Preparation tasks will be set by the instructor whenever appropriate.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロジスティクス【夜】

担当者名 齊藤 淳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	◎ バリューチェーン、サプライチェーンに関する基本的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 効率的かつ創造的なバリューチェーンを組み立てる力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 自社の課題をバリューチェーンの視点から改善する能力を修得する。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	○ 国際的な視点からバリューチェーンを組み立てる力を修得する。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

ロジスティクス

授業の概要 /Course Description

グローバルビジネスにおいて、その成否はサプライチェーンの効率的・独創的な構築がカギを握る、とされています。また「全体最適」「販売・生産情報の一元化」「在庫の見える化」「リードタイム」などサプライチェーンマネジメント（SCM）の概念は、企業の業態や大小にかかわらずビジネスの日常に浸透してきています。

そこで本講義では、グローバル企業はどのようなバリューチェーン、サプライチェーンを構築し競争力を生み出しているのか、サプライチェーンマネジメント（SCM）の基本概念と実際について、戦略とオペレーションの両面から理解することを目的とします。

具体的には、①事業再生（危機）から成長（飛躍）までのそれぞれの戦略とSCM、②現場におけるサプライチェーン改善とそこから生み出される競争力、③その成否を握る人財マネジメントについて、日本のものづくりの強みを競争力としてグローバルに展開している自動車産業の事例から学びます。

授業の到達目標は下記とします。

- ① SCMの基本概念を学び、その実践により自事業の競争力を高める。
 - ② 日本発グローバルビジネスの強みとなるサプライチェーンを自ら構築出来る。
- また、グローバル社会におけるリーダーの基本スタンスの考察も行っていきます。

教科書 /Textbooks

各講義レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上達彦(監修)『日産V-upの挑戦』中央経済社

ロジスティクス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① SCM概論
【ロジスティクスとサプライチェーンとバリューチェーン】 【SCMの狙いと効果】 【戦略的SCM事例】
- ② グローバル企業とは？
【日本の強みと日本発グローバル企業の戦略】 【自動車産業のグローバル展開】
- ③ グローバル戦略とSCM(1)
【事業再生におけるマネジメント：日産リバイバルプラン】 【クロスファンクショナルチーム】
- ④ グローバル戦略とSCM(2)
【成長段階におけるマネジメント：日産V-up (継続的課題設定・ 解決プログラム)】 【日本企業の今後の道筋：戦略とオペレーション】
- ⑤ グローバル人財
【グローバル競争の構図】 【グローバル人財とは？】
- ⑥ 人財マネジメント
【人事・報酬システム(能力・業績主義、インセンティブ)】 【組織】 【人財育成】 【ダイバーシティー】
- ⑦ ものづくりを起点としたSCM(1) - 生産システム
【日産生産方式(同期生産)】 【企業間共同SCM改善活動】
- ⑧ ものづくりを起点としたSCM(2) - 在庫
【在庫管理の原則と活動】 【在庫改善】
- ⑨ ものづくりを起点としたSCM(3) - 調達
【グローバル購買戦略】 【九州におけるグローバル調達】
- ⑩ ものづくりを起点としたSCM(4) - 物流
【物流(費)の見える化】 【国境を越えたシームレス物流(日韓物流)】 【マテハン改善】
- ⑪ 見える化
【見える化とは】 【5S】 【見える化事例】
- ⑫ SCM事例研究：受講メンバー研究の発表と論議
(流通業界等の先端SCM事例をテーマとして)
- ⑬ SCM危機管理
【SCMとリスク】 【リーマンショック・東日本大震災】 【Business continuity plan】
- ⑭ 各メンバーによるプレゼンテーションとディスカッション
下記テーマいずれか
1) 自事業のSCMの課題、その解決策
2) 日本発グローバルビジネスのSCM構築提案
- ⑮ まとめ
【企業経営とSCM】 【リーダーとは？】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート... 50% 授業・ディスカッションへの参加度・貢献度... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各授業の最後に、次回授業でのディスカッションテーマを提示しますので、予め意見をまとめて授業に参加してください。
SCM事例研究(⑩コマ)では、テーマを定め、受講者それぞれが調査・研究した内容をもとに全員でディスカッションを行います。
終了課題(⑭コマ)では、自事業のSCMの課題と解決策、または新規事業(SCM)構築提案を各人それぞれに行っていただきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバル製造業(自動車)における事例を中心に授業を進めていきますが、事例からSCMの普遍的な概念、原理原則に落とし込むよう留意します。

キーワード /Keywords

サプライチェーンマネジメント、グローバル人財、同期生産

問題解決スキル【夜】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 問題解決に必要なとされる基本的な思考方法および分析ツールを習得する。
技能	分析解決技能	○ 問題解決に必要なとされる分析ツールを事例を通じて応用できる。
	実務技能	○ 問題解決のためのツールを使いこなす力を修得する。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

問題解決スキル

授業の概要 /Course Description

ビジネスに必要なスキルは、プレゼンテーション、ライティング、コミュニケーションなど多岐にわたるが、本講義では、問題解決に必要なとされる基本的な思考方法、分析ツールを紹介し、ケーススタディを通して解決スキルを習得してもらうことに主眼を置いている。

前半は、システム分析の視点から授業を構成する。後半は、適宜、演習問題を課すことによって理解力を高め、スキルの向上をめざす。

具体的には、KJ法、オペレーションズ・リサーチ、ビジネスモデル、TOCなど、簡単なものからパソコンを利用したいいくつかの分析手法を取り上げる。

教科書 /Textbooks

プリントまたは冊子を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

平山克己(2008年)『あほ賢システムのおはなし』SCC
 刀根 芳(2001年)『オペレーションズ・リサーチ読本』日本評論社
 柏木吉基(2006年)『Excelで学ぶ意思決定論』Ohmsha
 エリヤフゴールドラット著、三本木亮訳(2001年)『ザ・ゴール』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義方式に加え、グループワーク、パソコン演習、ケース・スタディを組み入れることで知識の理解を深め、かつ思考能力を涵養する。各講義内容は以下の通り

- 1回 問題解決手法とは 【ブレンストーミング】
- 2回 KJ法について【KJ法】
- 3回 KJ法演習【ラベル作り】
- 4回 KJ法演習【グルーピング】
- 5回表計算ソフトによる図解化法 【グラフ化】【統計的分析】
- 6回 表計算ソフトによる図解化法演習 【グラフ化】【統計的分析】
- 7回 オペレーションズ・リサーチとは 【PERT】【アクティビティ】【プロジェクト管理】
- 8回 オペレーションズ・リサーチ演習 【最適化】【線形計画法】
- 9回 ビジネスモデルとは 【IDEF】【アクティビティ】
- 10回 ビジネスモデル演習 【Activity Based Costing】【管理会計】
- 11回 制約条件の理論 (Theory Of Constraint)とは【制約条件】【ボトルネック】【ドラムバッファロープ】
- 12回 制約条件の理論 (Theory Of Constraint)演習
- 13～15回 演習 Reading Assignment発表 【ケース・スタディ】

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況・・・30% 課題・・・40% 討議の貢献度・・・30%

問題解決スキル 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持参してもらう場合があります。
自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

チーム・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 山口 裕幸 / Hiroyuki Yamaguchi / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	チームマネジメントに関する専門的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能	○	事業立ち上げに必要なチームを編成しまとめる力を修得する。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	課題解決に必要なチームの特性を理解し、チームをつくる力を修得する。
	地域リーダー態度	○	優れたチームマネジメントを実践するリーダーシップを修得する。
	国際協調態度		
※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		チーム・マネジメント	
※ 2013年度以降入学生が対象です。			

授業の概要 /Course Description

この授業では、チームを構成するメンバーが、活動を通して相互作用する過程でチームに備わってくる（創発されてくる）特性としてチームワークや、チーム・コンピテンシー、チーム・レジリエンスをとらえ、それらのチームレベルの特性を、より高品質なものへと育み、強化するための働きかけを考える視点から、効果的なチーム・マネジメントについて論じていく。

グループ・ダイナミクス、組織行動論、戦略的人的資源管理論、複雑系科学、進化論を学術的論考の基盤としつつ、組織現場で発生している現実問題を題材として取り上げながら、いかなるマネジメントが効果的であるのかを、マイクロレベル（＝個人の心理プロセスや行動特性）と、それらが相互作用することでできあがり、また変容していくマクロレベル（チーム・パフォーマンス、チーム規範、チームワーク等）の相互作用ダイナミズムに注目しながら、講義を進めていく。具体的に取り上げるトピックは、次のような構成を考えている。

1. チーム・マネジメントのターゲットは何か
2. チームの特性と類型を理解する
3. チーム発達論
4. チームワークとは何か
5. メンバー個々のチームワーク能力
6. チーム・コンピテンシーを考える
7. チーム・レジリエンスの重要性
8. チーム・デザイン論
9. チーム・ビルディング論
10. チーム・マネジメントとリーダーシップ

教科書 /Textbooks

「チームワークの心理学 - よりよい集団づくりをめざして -」山口裕幸(著)サイエンス社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学』山口裕幸・高橋潔・芳賀繁・竹村和久(著) 有斐閣アルマ
 『<先取り>指向の組織心理学 - プロアクティブ行動と組織』古川久敬・山口裕幸(編著)有斐閣

チーム・マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、集中講義形式での開講を予定しており、第1日(金・2コマ)+第2日(土・6コマ)+第3日(金・2コマ)+第4日(土・5コマ)で構成を考えている。また、講義を基盤とするが、課題を準備して、自らの意見を考えたり、受講生どうして議論したりする、演習形式も適宜、取り入れる。

<1日目:2コマ(講義を基盤に進めます)>

- ① チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史(1)【機械組織観、ホーソン研究、人間性心理学】
- ② チーム・マネジメントに関する研究と実践の歴史(2)【自己組織性、組織改革、チームワーク】

<2日目:6コマ(講義とグループワーク)>

- ③ チーム・マネジメントのターゲットを同定する【組織規範、組織コミュニケーション】
- ④ チームとは何か、その特性と類型【チーム、タスクフォース、クルー】
- ⑤ チーム発達論【組織の硬直化現象、ライフサイクル理論、】
- ⑥ メンバーの相互作用ダイナミクスとチーム・コミュニケーションの特性理解(講義)【場の理論、ネットワーク】
- ⑦ メンバーの相互作用ダイナミクスとチーム・コミュニケーションの特性理解(課題を用いた演習)
- ⑧ チームワークとは何か(講義)【モニタリング、相互調整、相互支援、相互指摘】

<3日目:2コマ(講義)>

- ⑨ チーム・コンピテンシーとチーム・レジリエンスを育むには(課題を用いた演習)
- ⑩ チーム・コンピテンシーとチーム・レジリエンスを育むには(講義と議論)【コンピテンシー、レジリエンス、失敗学】

<4日目:5コマ(講義と演習)>

- ⑪ チーム・パフォーマンスを阻害するチーム・ダイナミクスの理解【プロセス・ロス、他】
- ⑫ 優れたチーム・コミュニケーションを育むための条件【共有メンタルモデル、暗黙の強調】
- ⑬ チーム・デザインとチーム・ビルディング【介入型チーム育成、自律管理型チーム】
- ⑭ 優れたチーム・マネジメントを実現するリーダーシップを考える(課題を用いた演習)
- ⑮ 優れたチーム・マネジメントを実現するリーダーシップを考える(講義)【目標管理、影響力、ミッション、ビジョン】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の途中で課される課題への解答の精度(25%)、課題や議論への参加態度(25%)、レポートの品質(50%)を総合して成績を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 授業開始前までに、あらかじめ授業計画に記載してある各回のキーワードについて、その概念を調べたうえで、出席するようにしてください。
- (2) 授業終了後、疑問の残っている点をノートに書き出したうえで、次の日の授業に出席してください。その疑問について授業の中で発表していただき、議論します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

集中講義で開講しますので、1コマだけ休むということが難しい授業です。全コマ出席できることをあらかじめ良く確認して履修するようにしてください。

キーワード /Keywords

環境ビジネス【夜】

担当者名 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、リサイクルビジネスを中心として環境ビジネスのマネジメントについて学ぶ。第1に経済システムという視点から環境問題や環境行動を考察する。第2に、環境ビジネス分野ごとの動向を把握し、現状分析と課題抽出を行い、その動向を探る。第3に、企業経営において必要とされる環境行動について検討し、分析フレームワークに基づく課題解決のためのプランを検討する。その上で、環境問題の解決に結びつくようなビジネスモデルを立ち上げることを想定したグループ学習を行う。

教科書 /Textbooks

講義は基本的に配布プリントにて行うが、必要に応じて参考文献を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マイケルE.ホーター、マークR.クラマー「共通価値の戦略」『ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー』2011年6月号。
ダニエル・C・エステイ / アンドリュー・S・ウinston (村井章子訳)『グリーン・トゥ・ゴールド』アスペクト、2008年。
そのほか、適宜講義の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【環境ビジネスとは何か】
- ② 企業活動と環境問題
【環境問題と企業活動の関係を考える】
- ③ 社会システムと環境問題
【持続可能な発展：市場・行政・社会のシステム】
- ④ 市場と環境問題
【市場システムを活用した環境問題解決手法】
- ⑤ リサイクルビジネスの基礎
【リサイクルビジネスの分野と成長可能性】
- ⑥ リサイクルビジネスの課題
【リサイクルビジネスの課題とその解決方法】
- ⑦ 環境ビジネスにおける顧客創造
【顧客とは誰か？顧客創造とは何か？】
- ⑧ 環境ビジネスの市場分析と参入可能性1
【市場分析のフレームワーク】
- ⑨ 環境ビジネスの市場分析と参入可能性2
【プレゼンテーションとディスカッション】
- ⑩ 環境ビジネスの市場分析と参入可能性3
【プレゼンテーションとディスカッション】
- ⑪ 環境産業クラスター1
【環境産業クラスターの現状と課題】
- ⑫ 環境産業クラスター2
【環境ビジネスにおける戦略とCSV】
- ⑬ 現場から考える環境ビジネス1
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑭ 現場から考える環境ビジネス2
【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑮ 課題発表とディスカッション
【課題設定にもとづきプレゼンテーションおよびディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度(発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など)：50%、課題の内容(レポートなど)：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講に際しては、一方で環境問題や環境活動に対する固定観念を一度取り払うこと、もう一方で環境問題に関連する社会経済の動向に注意を払うことを求める。また、原則として毎回事前課題を課すので、次回に授業までに準備しておくこと。

環境ビジネス【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境問題、環境ビジネス、リサイクル、エコタウン事業

国際経営【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	国際経営の理解に必要な理論的専門知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	国際経営に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその分析と解決策の提示ができる。
	実務技能		
	新規事業技能	△	国際的に新事業を展開するに必要とされる技能を修得する。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	国際経営を遂行するにあたって必要とされる挑戦的姿勢と変革する能力を修得する。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度	○	国際経営を遂行するにあたって必要とされる相互理解の態度と協調的姿勢を修得する。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

国際経営

授業の概要 /Course Description

国際経営（経営のグローバル化）に関する広い視野と深い洞察力、特に企業の国際事業戦略に関する専門知識やノウハウの取得を目的とする。講義内容は大きく3部構成とする。第1部では国際経営の基礎概念、代表的な学説を概説した上、関係統計を通じて経営国際化進展の全体像を掴む。第2部では、経営国際化に関わる戦略的な側面を中心に学ぶ。第3部ではケーススタディを行い、討論を通じて全体内容に対する理解を深めていく。

自ら開発したケース教材を使用すると共に、国際ビジネスの現場経験を有する経営者または専門家をゲストに迎える予定。毎年受講生のバックグラウンドに大きなばらつきがあることに鑑み、初講義時に意見聴取やアンケートによる確認を行った上、3～4人単位のグループ分けを行う。

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

亀井正義著 『企業国際化の理論』 中央経済社
 湯沢威他著 『国際競争力の経営史』 有斐閣
 吉原英樹編著 『国際経営論への招待』 ミネルブア書房
 経済産業省編 『通商白書』 (各年版)
 JETRO編 『世界貿易投資白書』 (各年版)

国際経営【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：講義の狙い、内容構成と進め方の説明
- 第2回 「経営国際化」、「多国籍企業」とは【企業の国籍】
- 第3回 多国籍企業の誕生、発展段階【株式会社誕生起源説】【6段階説】【4類型化】
- 第4回 企業の多国籍化の誘因【貿易摩擦回避型】【原価削減型】【PLC説】【資本余剰説】
- 第5回 基本統計の解説【国際収支ベース】【対外・対内直接投資】【グローバル企業ランキング】
- 第6回 多国籍企業の所有戦略【持ち分型】【非持ち分型】【技術供与契約方式】
- 第7回 渉外租税規制強化の動向【実効法人税率】【OECDの勧告】
- 第8回 多国籍企業の租税戦略【RHQ】【タックスヘイブン】【移転価格】
- 第9回 日系企業経営現地化の課題と挑戦【意思決定権限】【人事】【技術・ノウハウの移転】
- 第10回 日系企業に関する現地調査報告
- 第11回 ケーススタディI(日系多国籍企業のケース)
- 第12回 グループ討議
- 第13回 ケーススタディII(東アジア系多国籍企業のケース)
- 第14回 グループ討議
- 第15回 グループプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題レポート 50%
- 討論への貢献度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 紹介資料、配布資料を熟読すること
- 課題提出時間の厳守

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 講義中にいつでも自由に質疑・発言する心掛けを！
- 自分の個性・強みをフルに出して下さい！

キーワード /Keywords

地域づくり総論【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	地域が直面する問題や課題についてマネジメント理論を踏まえた議論ができる。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能	○	地域の問題や課題の解決に向けた構想を各種の連携を踏まえて具体的に提案できる。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域リーダーの自覚のもと、地域の諸問題に対して幅広い視点で提案できる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

地域づくり総論

授業の概要 /Course Description

わが国は既に人口減社会に突入しており、経済活力の低下が深刻化しつつある。とりわけ、地方における経済活力の低下は極めて深刻な状況となっている。そのため、これまで以上に地域づくりや地域産業振興への関心が高まっている。しかしながら、従来の行政中心の手法には限界があり、行政の枠を超えたマネジメントのもとでの地域づくりや地域産業振興が求められている。

そこで本講義では、行政の枠を超えた地域づくりのケーススタディ等により、様々な担い手によって実行される地域づくりに必要な戦略やチームマネジメントについて学ぶものとする。なお、本講義の到達目標は、①地域づくりの現場における課題を具体的に抽出できること、②地域活性化につながる地域資源を具体的に発掘できること、③地域づくりを担う具体的なチームの体制を提案し、地域におけるリーダーシップのあり方を理解できること、である。

教科書 /Textbooks

その都度、指示します（基本はプリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

P.F.ドラッカー「非営利組織の経営」ダイヤモンド社
P.F.ドラッカー「イノベーションと企業家精神」ダイヤモンド社
ロバート・K・グリーンリーフ「サーバント・リーダーシップ」英治出版
ジェームズ・C・コリンズ「ビジョナリーカンパニー【特別編】」日経BP社
広井良典「コミュニティを問いなおす」ちくま新書
新雅史「商店街はなぜ滅びるのか」光文社新書
中沢明子「埼玉化する日本」イースト新書
吉本哲郎「地元学をはじめよう」岩波ジュニア新書

地域づくり総論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①、②地域を景観とデータから読み取る
【地域の現状の確認：高齢化・都心空洞化・人口減少、消費低迷、下流化、埼玉化】
【ディスカッション：10年後の地域のかたち、すでに起こった未来】
- ③、④都心機能の変遷と新しい潮流
【都心の機能の変遷：中心市街地、オフィス機能、小売機能、サービス機能、交流機能】
【新しい潮流：深夜化・24時間化、生活拠点化、エキマチ化、まちなか居住】
- ⑤、⑥北九州市におけるエキマチの実態と八幡駅前地区の方向性
【エキマチの実態：人口動態、就業者の状況、都市機能の現状】
【ディスカッション：地域に実態・特徴を把握するために何をすべきか？】
- ⑦、⑧地域づくりのケーススタディ（フィールド・ワーク）
【中心市街地の活性化：黒崎地区の実態（商店街、再開発、再都市化、コミュニティデザイン）】
- ⑨、⑩地域コミュニティの限界と可能性
【地域コミュニティとは？公/共/私、地域/国家/地球、外部マネジメント、人的ネットワーク】
【ディスカッション：地域コミュニティの未来 / 地域づくりのために誰とつながるべきか？ / 地域コミュニティの拠り所とは？】
- ⑪、⑫事例に学ぶ地域資源と地域事業創造
【地域資源の発掘方法：よそ者/若者/馬鹿者、マッチング、川崎町、周防大島、日田、新宿歌舞伎町】
【ディスカッション：北九州における未開の地域資源は何か？】
- ⑬、⑭地域事業創造のためのフォーメーションと外部マネジメント
【地域事業創造に必要な構成要素：地域マーケティング、社会的課題、ソーシャルメディア、ダウンサイジング、地域協働】
【ディスカッション：これからの時代の地域事業とは？】
- ⑮地域づくりプロジェクトの提案
【どんな地域課題に対して、どんな地域資源を生かして、誰とつながるのか？】

成績評価の方法 /Assessment Method

地域づくりプロジェクトの提案レポート（70%）、ディスカッションに対する貢献度（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

マーケティングや経営戦略といったベーシック科目をしっかり習得していることを期待する。また、できればパブリックマネジメントやソーシャル・ビジネスの履修していることが望ましい。
本講義は2コマ連続の隔週開講とする。
事前学習については適宜、資料や文献の確認・精読等を指示します。また、事後学習については、講義に活用したパワポを学習支援フォルダにあげるの、復習・確認をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネススクールならではの知見を応用しつつ、地域づくりを多角的に捉えて、具体的な案件をとりあげて議論を深めたいと思います。

キーワード /Keywords

地域事業創造、コラボレーション、すでに起こった未来、地域コミュニティ、ソーシャル・ビジネス、市街地活性化、社会的課題、合意形成、地域協働、公共空間利用、サーバント・リーダーシップ

会社法【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	高度専門職業人として活動するために有益となる会社法に関する知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能	○	ビジネスにおいて生じ得る会社法上の問題を発見・処理するための技能を修得する。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

会社法

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定する法律であり、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に遵守しなければならない様々なルールを定めています。この講義では、会社のうち株式会社を中心に、会社のガバナンスやファイナンス・M&A等に関する法制度を説明します。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション
- ②会社の種類
- ③株式会社の設立
- ④株式(1)【株主の権利】【株式の種類】
- ⑤株式(2)【株式の譲渡】【株主名簿】
- ⑥株式会社の機関(1)【株主総会】
- ⑦株式会社の機関(2)【取締役】【取締役会】
- ⑧株式会社の機関(3)【株式会社の監査・監督】
- ⑨株式会社の機関(4)【役員等の義務】【役員報酬】
- ⑩株式会社の機関(5)【役員等の責任】【株主代表訴訟】
- ⑪株式会社の資金調達(1)【新株の発行】
- ⑫株式会社の資金調達(2)【新株予約権】【社債】
- ⑬株式会社の組織再編
- ⑭企業グループ
- ⑮まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表等のクラスへの貢献度...50% (会社法の裁判例を用いた事例報告を最低1回は担当して頂く予定です。)
レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会社法【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

管理会計【夜】

担当者名 大崎 美泉 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	管理会計の理論の理解に必要な専門知識を修得する。
	実践知識	◎	管理会計の実践に必要な専門知識を習得する。
技能	分析解決技能	○	管理会計の諸問題を解決するための分析手法を習得する。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	△	管理会計に関わる諸問題に関心を持ち続け、市民としての社会的責任感と倫理観を身につける。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

管理会計

授業の概要 /Course Description

管理会計とは、企業の経営者や経営管理者がマネジメントを展開するために必要な情報を提供する会計で、本授業はこの管理会計の理論、技法について学んでいきます。

まず始めに、管理会計の特質、意義、体系について学習し、管理会計の全体像を把握します。

次に、経営戦略のための管理会計という観点から、経営戦略の策定における管理会計の役割について、さらに、マネジメント・プランニング・アンド・コントロールのための会計という観点から、短期利益計画、損益分岐点分析、予算管理、事業部制会計に関する理論と技法について学習します。

最後に、オペレーショナル・コントロールのための会計という観点から、生産管理その他の論点を理解するとともに、管理会計の新しい課題や企業以外の組織体への管理会計の適用についても議論していきます。

本講義の到達目標は、以下の通りです。

- ①専門分野の知識・理解：管理会計の知識を理解したうえで、実務における分析方法を修得する。
- ②課題発見・解決能力：企業の経営管理上の問題点を分析し、課題解決のための提案を行うことができる。
- ③生涯学習力：企業に止まらず、他の組織体のマネジメントにも知識を援用することができる。

教科書 /Textbooks

特に使用せず、必要な資料を適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 上総康行『管理会計』（新世社、2007）
櫻井通晴『管理会計（第5版）』（同文館出版、2012）
西村明、大下丈平『ベーシック管理会計』（中央経済社、2013）

管理会計【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業の方針、内容についての説明
2. 経営管理と会計、財務会計と管理会計 【会計の目的と機能】【P D C A】
3. 管理会計の発展系譜と管理会計の体系 【経営管理組織】【計画と統制】
4. 経営戦略の意義と管理会計の役立ち 【経営戦略論の展開】【環境分析と自社分析】
5. 競争戦略とP P M 【利益目標】【事業の魅力度】
6. 原価企画 【製造環境の変化】【原価企画のステップ】
7. 投資の経済計算 【回収期間法】【現在価値法】
8. 価格決定と価格戦略 【原価補償】【戦略的価格設定】
9. 短期利益計画と損益分岐点分析【総資本利益率】【自製か購入か】
10. 総合管理としての予算管理 【責任会計システム】【予算管理の基本機能】
11. 事業部制会計の概要 【分権化組織】【事業部の業績評価】
12. 内部振替価格と共通費の配賦問題 【原価基準と市価基準】【本社費】
13. 課業管理のための管理会計 【J I T】【品質管理】
14. 管理会計の新課題 【B S C】【会計情報システム】
15. 企業以外の組織体への管理会計の展開、授業のまとめ 【病院管理会計】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(30%)、発表等の授業への貢献(20%)、レポート(50%)を勘案して、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業後には、授業の復習をしてください。

企業に関する新聞記事等に注意しておいてください。

「原価計算」や「経営学」に関する科目を履修している場合は、本講義の理解がより深いものとなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略 経営管理 コスト 病院マネジメント

ベンチャー・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 山口 徹也 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ ベンチャー企業成長モデルを修得する。
	実践知識	○ 戦略思考とマーケティング手法を習得する。
技能	分析解決技能	○ スタートアップと持続的成長のスキルを習得する。
	実務技能	
	新規事業技能	◎ 新規の事業計画と評価法を修得する。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ コーポレートベンチャリングを実践する力を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

ベンチャー・ビジネス

授業の概要 /Course Description

ビジネスは「顧客」から「カネ」を受け取るにより成り立っているものであるため、「マーケティング」と「アカウンティング」は皆さんが身につけておかなければならない不可欠な要素と言えます。本講座は、これらの観点を中心にビジネススタートアップに必要なスキルを身につけることを主な狙いとしております。企業勤務者にとっても社内での新しい事業部門の構築や投資取引先を選定する際にも役に立つ内容です。中小企業の身近な事例を参考に臨床ケーススタディを行います。さらに、ベンチャー役員の実務経験や公認会計士・税理士の立場に基づき、事業計画数値、会計についても議論します。

教科書 /Textbooks

講義ごとにレジユメを紙面配布（または、電子データ提供）いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

体系だった基本書及び統計解析等項目毎の専門書について、授業の最初にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション：VBの定義【起業家の要件】【機会探索】【ビジネスモデル】
- ②アントレプレナーシップ：【リーダーシップ】【志】【経営倫理】【経営理念】【組織人材】
- ③スタートアップ：【登記】【資金調達】【会社法、税法等の法令】【イノベーション制度】
- ④ケーススタディ：ビジネスゲーム、ビジネスプランの事例紹介
- ⑤戦略分析フレームワーク：【マーケティング】【3C】【4P】【STP】
- ⑥財務フレームワーク：【決算書】【原価計算】【KPI】【予算統制】
- ⑦事業評価フレームワーク：【NPV】【WACC】【割引率】【ROI】
- ⑧統計解析、仮説構築の基礎【推論】【回帰分析】【相関係数】
- ⑨ケーススタディ：地元企業を中心とした新規技術の紹介【AI】【VR】【IT】
- ⑩ファイナンス(1)：【ベンチャーキャピタル】【銀行交渉】【財務計画】【資金調達】【CF】
- ⑪ファイナンス(2)：【IPO】【ストックオプション】【種類株】【資本政策】
- ⑫ケーススタディ：デューデリジェンス【PER】【Exit】【販売計画】
- ⑬新しいベンチャー：【社会貢献】【NPO】【ネットベンチャー】【社内起業】【スピンアウト】
- ⑭プレゼンテーション：エグゼクティブサマリーで起案する【事業計画】【稟議】
- ⑮コンテスト形式の相互評価、講評、全回の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート..40%、ディスカッション..30%、小テスト等講義内総合評価..30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ベンチャー・ビジネス【夜】

履修上の注意 /Remarks

電卓、PC等計算機器の持参をお願いするコマがあります。
隔週2コマ連続のスケジュールです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

知ったふりよりも、脳や手が自然に動く活かせる武器を身につけられることを目指します。

キーワード /Keywords

「授業計画・内容」をご参照下さい。

戦略的提携と事業創造【夜】

担当者名 /Instructor 森永 泰正 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 他組織との提携・連携に関する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	◎ 事業創造に必要な戦略的提携を実現するための能力を身につける。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業変革に必要とされる戦略的提携を構築する能力を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

戦略的提携と事業創造

授業の概要 /Course Description

- 2015年12月、FRB金利は上昇しましたが、各国財務当局は公定歩合の引上げには依然躊躇しており金融緩和を継続しています。資金調達が必要な企業はこぞつてグローバルで巨額のM&Aを実行、多くの企業は再編へ向けて動いています。
- 国内経済は、中国経済の影響が心配ではありますが、2020年まで小康状態の維持は可能と思われます。然しながらそれ以降は厳しい状況となり経営環境も一段と難しさを増してくることが予想されます。
- M&Aは成長戦略の一つとして時間を買う意味が大きい一方、国内の低成長の経営環境を考える場合、雇用を守る手段としても大事な側面を持ち合わせます。
- また、提携は必ずしもM&Aのような企業の資本結合ばかりではなく、地域と企業、地域同士などソフトなアライアンスも含め様々なケースが考えられます。ドイツでは中小企業のオープンイノベーションが重要視され、産官学による連携が進み、インダストリー4.0の活用も含め世界をリードしています。
- 講義では、厳しい経営環境をこれから迎えるに当り、事前の対策として様々な提携につき検討を行います。また経営者として必要な「心」或は「覚悟」につき受講者間で議論を重ねて頂きます。
- 講師は2015年3月まで総合商社の営業部門の一つで営業企画を担当。担当した事業分野における環境変化への企業の対応の実態、或いは成長へ必要な営業政策や社員のモチベーションの高揚策について紹介を行い受講者とその是非につき議論します。
- 講義の進め方は、授業の前半で国内外の経営環境につき講師が所見を述べ受講者と自由討議を行います。後半は、予め出題の設問につきグループにて議論して頂き、結果発表と講師による解説を行います。

教科書 /Textbooks

資料を都度事前に準備します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ヘンリー・ミンツバーグ「MBAが会社を滅ぼす」日経BP
- クレイトン・クリステンセン「経営論」ダイヤモンド社
- NHKスペシャル取材班「新日鐵vsミタル」ダイヤモンド社
- 嶋田賢三郎「責任に時効なし 小説 巨額粉飾」アートデイズ社
- 野中郁次郎・勝見明「イノベーションの知恵」日経BP

戦略的提携と事業創造【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション 【BS、PL、CFの見方、企業価値算出、会社法・独占禁止法などの基礎、取締役、監査役の役割】
- ② カネボウ 【事業多角化の課題】
- ③ カネボウ 【カネボウの蹉跌と花王の課題、企業買収の留意点】
- ④ 国内電炉 【東京鉄鋼と共英製鋼の統合破談、公取審査の実例】
- ⑤ 国内電炉 【東京鉄鋼のソフトウェア戦略】
- ⑥ 提携交渉 【DCF、純資産法による株主価値算出の具体例、例題を解きながら理解を深める】
- ⑦ 提携交渉 【守秘契約～DueDiligence】
- ⑧ 提携交渉 【統合契約～払込、独禁当局対応、模擬交渉】
- ⑨ 提携交渉 【種類株式、社外陣営に於ける経営関与】
- ⑩ 与信と金利 【商社事業の基本部分としての与信管理】
- ⑪ 連携具体例 【MA以外の連携例】
- ⑫ グローバル経営【新日鐵】
- ⑬ オープンイノベーション【ドイツの成功に学ぶ】
- ⑭ 北九州市と福岡市の比較【自治体の連携】
- ⑮ 提携についての纏め【纏め】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 平常の講義への参加70%
- ② レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ① 隔週2コマ連続の予定です。
- ② 事前学習：事前配布の資料に目を通して頂き、設問の論点を理解頂きます。
- ③ BS等会社財務についての理解が前提となります。
- ④ 事後学習として、ご自身が所属される企業の財務分析を行ってみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「ものづくり」復権と「強い経営人材@地方の中小企業」の育成を目的とします。

キーワード /Keywords

フィナンシャル・インベストメント【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 1学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	◎	フィナンシャル・インベストメントに関する専門知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能	○	フィナンシャル・インベストメントに関する定性的・定量的分析能力を習得する。
	実務技能	○	フィナンシャル・インベストメントに関する実務的な技能を身につける。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度	○	企業経営に関してフィナンシャル・インベストメントの観点から変革する力を身につける。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

フィナンシャル・インベストメント

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

さまざまな金融商品のリスク・リターン特性、証券市場の価格決定メカニズムを学んだうえで、ポートフォリオの運営やデリバティブの活用法などについて実例を交えながら学ぶ。具体的には、金融・証券市場、投資の基本概念、債券投資、株式投資、効率的市場と行動ファイナンス、現代ポートフォリオ理論、デリバティブなどについて、実例を通して学び、自ら分析できるようにする。そして、分析手法をケース・スタディに応用して、実践的な分析力を養い、適切な経営判断ができるようになる。到達目標は以下のとおり。①投資の基本概念を理解し、投資分析ができるようになる、②ポートフォリオ理論を理解し、証券データを使って分析できるようになる、③デリバティブの仕組みと利用法を理解する。

教科書 /Textbooks

ブリーリー&マイヤーズ&アレン(著) 藤井真理子・国枝繁樹(監訳)(2014年)『コーポレート・ファイナンス(第10版) 上』、『同 下』日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ボディ&マートン&クリートン(著) 大前恵一朗(訳)(2011年)『現代ファイナンス論 原著第2版』ピアソン

フィナンシャル・インベストメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション 【ファイナンス】
- ② 金融市場と金融資産
【市場】【債券】【株式】【派生商品】【機関投資家】
- ③ 投資の基本概念
【現在価値分析】【投資収益率】
- ④ 債券投資分析(1) 債券の評価
【最終利回り】【債券価格】【イールド・カーブ】
- ⑤ 債券投資分析(2) 債券のリスク
【デュレーション】【金利リスク】【信用リスク】
- ⑥ 株式投資分析(1) 普通株式の価値
【株価】【代表的指標】【配当割引モデル】【ゼロ成長モデル】【定率成長モデル】
- ⑦ 株式投資分析(2) 普通株式の価値
【利益と投資機会】
- ⑧ 効率的市場と行動ファイナンス(1)
【効率的市場】【アノマリー】【市場の効率性】
- ⑨ 効率的市場と行動ファイナンス(2)
【行動ファイナンス】【裁定取引】
- ⑩ ポートフォリオ理論(1) リスクとリターン
【収益率】【分散】【標準偏差】【分散投資のリスク軽減効果】
- ⑪ ポートフォリオ理論(2) CAPM(資本資産評価モデル)
【資本市場線】【効率的フロンティア】【証券市場線】
- ⑫ ポートフォリオ理論(3) ケース・スタディ
- ⑬ デリバティブ(1) オプション
【コール・オプション】【プット・オプション】【オプションの価値】
- ⑭ デリバティブ(2) オプションの価値評価
【二項モデル】【ブラック=ショールズ・モデル】
- ⑮ デリバティブ(3) リアル・オプション

成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度	30パーセント
課題の提出	70パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「ファイナンス」を履修しておくこと。
 「ファイナンス」で学んだ知識と分析能力はこの科目の前提となるので、復習しておくこと。
 日本経済新聞を購読して、ファイナンスの知識を活かし自分の考えを持って批判的に読んでください。
 課題をすらすら解けるようになるまで復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 田端 弘道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	◎ 中国ビジネスに関連する専門的知識を身につける。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 中国ビジネスを事業の成長につなげる視点を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	○ 中国市場の特性やビジネス習慣を理解し、国際的にビジネスを推進できる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

中国ビジネス

授業の概要 /Course Description

中国は既に世界第2位のGDPを持つ国に成長し魅力ある市場と共に世界に向けた生産基地となっている。最近では国内成長がやや峠を越えチャイナリスクが現実味を帯びて囁かれるようになってきた。しかしながら、リスクを乗り越えれば依然魅力的な市場には変わりなく、逆境化で勝ち残った企業は本当の実力企業だといえる。本講義はゼロから中国市場に取り組み生産、販売の事業で成功したモデル企業を題材として実際に中国で駐在し経験した立場から講義する。中国ビジネスに留まらず米州、欧州、アジアの事業戦略も取り上げ、グローバルなビジネスの考え方を伝授したい。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事例に関する図書を授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション 【講義内容の構成、進行】
2. 中国事業の歴史と展開
3. 成功要因 【販売チャネル、ブランド戦略】
4. 成功要因 【統括会社設立、ローカル人財の活用】
5. 他社事例 (1)
6. 他社事例 (2)
7. プレーンストーミング (1)
8. プレーンストーミング (2)
9. 販売戦略 【商慣習、アフターサービス】
10. マーケティング 【広告宣伝、生活文化の提案】
11. 危機管理 【知的財産、カントリーリスク】
12. 製造拠点の考え方 【地産地消】
13. グローバルビジネス (1) 【他地域の展開と対比】
14. グローバルビジネス (2) 【グローバル企業に必要な事】
15. まとめ総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

1. 課題に対するレポート (40%)
 2. 授業の途中で課される課題への解答、考え方の精度 (30%)
 3. 授業への参加姿勢 (30%)
- 上記 1～3 を基に総合的に評価する。

中国ビジネス【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

中国ビジネスに関する知識の有無は前提としない。
グローバルビジネスの感覚を身に付けようとする意欲は必須。
授業後には、授業の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国市場、グローバル、国際ビジネス

環境政策【夜】

担当者名 /Instructor 松岡 俊和 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 環境政策に関連する専門的かつ実践的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 環境問題に関する意識を高め、社会的責任感と倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域において環境問題解決を提示する力を身につける。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

環境政策

授業の概要 /Course Description

北九州市はOECD緑の成長都市モデルに選定されるなど国内外から環境都市として高い評価を得、都市の成長エンジンとして「環境」を掲げている。(Green Growth City) その環境の取組について、公害、廃棄物、エネルギー等の個別要素単位に、ディスカッションを主体とした解析と、北九州市の環境政策をとりまとめたOECDレポートの改めでの検証を行う。最後に、北九州市が地域政策としてGreen Growth Cityを推進していく上での方向性、今後の取組のあり方をとりまとめる。

教科書 /Textbooks

OECDグリーン成長スタディ「北九州のグリーン成長」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州の環境政策にかかるOECDレポート(適宜コピーを配布)

環境政策 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 環境政策総論①
【講義の趣旨・進め方、北九州市の環境政策の概要】
- ② 環境政策総論②
【時代の変遷とともに広がる環境政策】
- ③ 公害克服の歴史を考える
【公害事象、公害対策、クリーナープロダクション】
- ④ 環境問題と各セクターの関わりを考える
【住民運動、リスクコミュニケーション、環境教育】
- ⑤ 一般廃棄物処理事業を考える
【廃棄物処理の歴史、ごみの有料化、行政と住民の役割分担】
- ⑥ エコタウン事業を考える
【誕生秘話、環境産業化、社会経済との融合】
- ⑦ 低炭素社会づくりを考える
【地球温暖化対策、環境モデル都市、環境未来都市】
- ⑧ エネルギー政策を考える
【北九州市のエネルギー事情、再生可能エネルギー、地域エネルギー政策】
- ⑨ 環境の街づくりを考える
【東田グリーンビレッジ構想、街づくりの主体】
- ⑩ スマートコミュニティ事業を考える
【地域節電所、スマート社会】
- ⑪ 環境国際協力を考える
【自治体と国際貢献】
- ⑫ 環境国際ビジネスを考える
【感謝されるビジネス】
- ⑬ OECDレポートを検証する①
【レポートが掲げる成果】
- ⑭ OECDレポートを検証する②
【レポートが掲げる提言】
- ⑮ 緑の成長に向けての提案とりまとめ
【自らが考える緑の成長】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加姿勢 (30%)、授業中のディスカッションへの貢献度 (40%)、課題レポート (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業後には、授業の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境政策に対して、社会的側面、経済的側面など多方向から切り込んでいく意欲のある学生を期待しています。

キーワード /Keywords

北九州市の環境政策、緑の成長、サステナビリティ、多様性、国際展開

医療マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 小野村 健太郎 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 医療マネジメントに関連する専門的知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	○ 医療の現場における課題を適切に抽出し、分析する力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	○ 医療の専門的知識に裏付けられた、高い倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域のリーダーとして、医療マネジメントに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

医療マネジメント

授業の概要 /Course Description

医療の歴史を振り返りながら、現代の医療とリわけ日本の医療の現場において、何が課題なのかを分析し考察する。医療マネジメントは、これらの課題に医療従事者が積極的に取り組み、質の高い医療を効果的に患者に提供するための一連の創造的活動である。医療マネジメントの理論を正しく効率的に現場で活用するためには、医療経済、医療制度、法、安全管理や組織論に精通する必要がある。これらを実用的な立場に立ってわかりやすく解説する。また、医療従事者が医療マネジメントの専門的知識を正しく修得し得たとしても、高い倫理観に裏付けられた適正なリーダーシップを発揮できなければ、上述の課題は解決には向かわない。リーダーシップに関する従来の知識や理論に対する誤解を具体例を挙げて指摘し、誰もが医療マネジメントに精通したリーダーとなり得ることを解説する。

教科書 /Textbooks

毎回、資料を用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

患者塾、毎週火曜日毎日新聞西部本社版に連載中
 厚生労働白書、平成25年版、厚生労働省編
 医療マネジメント、真野俊樹、2004、日本評論社
 ベーシック医療問題(第4版)、池上直己、2010、日本経済新聞社
 マネジメント - 基本と原則、PFドラッカー、上田惇生編訳、2001、ダイヤモンド社
 入門・医療倫理1、赤林朗編、2005、勁草書房
 リーダーシップ、Harvard business review、2002、ダイヤモンド社

医療マネジメント【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 医療マネジメントとは？そして、今なぜ医療マネジメントなのか？
患者医師関係を中心に医療の歴史を振り返ったあと、医療をマネジメントすることの必要性とその方法論を解説する。
- ② マネジメントとは？
ドラッカーのマネジメントの理論を概観し、医療の現場においてマネジメントに何ができるのかを考える。
- ③ 医療において何が問題なのか 1
医療サービスの支払い方式を中心に各国と日本の医療保障制度を比較検討し日本の医療の問題点を浮きぼりにする。
- ④ 医療において何が問題なのか 2
医療費を適正化し医療の質を向上させるために何が課題なのかを解説する。
- ⑤ 医療において何が問題なのか 3
医療従事者に必要な意識改革と患者に必要な意識改革について述べる。
- ⑥ 医療マネジメントの基礎知識 1 1.医療と医療の費用に関わる法制度の変遷
2.DPCの正しい理解と実践のために
- ⑦ 医療マネジメントの基礎知識 2 医療従事者のための医療経済学と医療政策
医療における経済的評価の理論と実際を、実例を挙げながらわかりやすく解説する。
また、医療政策が何を指すべきかについて概説する。
- ⑧ 医療マネジメントの基礎知識 3 生き残りのための経営戦略
基準病床数の存在や医局制度による人事など、医療機関の経営戦略の特異性に言及しながら、医療機関の生き残りのためのマネジメントを解説する。
- ⑨ 医療マネジメントの基礎知識 4 収益管理とコスト管理
医療においては、「収益管理からコスト管理へ」の時代と言われる。その背景と具体的なマネジメントについて解説する。また、資金管理と投資、資金調達についても触れる。
- ⑩ 医療マネジメントの基礎知識 5 組織を活性化するために
人材管理やチームマネジメント、TQM、オペレーションマネジメントについて解説する。
- ⑪ 医療マネジメントの基礎知識 6 医療機関のICT戦略と安全管理
医療機関のICTの発達とともに安全管理の取り組みも大きく変貌している。医療機関のICT戦略と見逃しがちな安全管理の落とし穴について詳説する。
- ⑫ 医療マネジメントに求められる医療倫理とは？
実例として、尊厳死を求める瀕死の患者の家族に医療現場はどう対応すればいいのか - を考えながら、「医療倫理」の問題点と必要性を解説する。あわせて患者満足についても考える。
- ⑬ リーダーシップに関する最近の考え方
ハーバードビジネススクール等におけるリーダーシップの最近の理論を概観する。
- ⑭ 医療マネジメントのためのリーダーシップ
医療現場におけるリーダーシップの特異性を考察する。その上で、職種にかかわらず地域と医療現場のリーダーとなることの必要性と可能性について述べる。
- ⑮ まとめにかえて 医療事故謝罪記者会見シミュレーション
医療事故は、まさかのものではなく残念なことにごく身近なものになっている。あなたの現場でも起こりうる医療事故を想定し、現役の報道記者にも立ち会ってもらい、謝罪記者会見のシミュレーションを行う。このシミュレーションを通じて医療マネジメントの意義を総括したい。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（毎回講義終了後にレポートを提出） 50%、
レポート（すべての講義終了後に提出） 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は、「つづきもの」として連続性を持たせた授業計画になっているので、授業の始めに前回分を簡単に振り返ったあとで新しい内容の講義に入る予定です。
講義後には、内容を800字程度にまとめて次回講義の際に提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

医療マネジメントは、医療従事者のみのものと考えられがちですが、「賢い患者」として効率的に医療を利用するためにもきわめて有用な情報を提供してくれます。医療従事者以外の方でも、少しでも関心のある方は、ぜひ気楽な気持ちで履修してください。
また、基礎知識や医療現場の実体験がなくても、講義を楽しみながら「医療マネジメント力」を身につけることができるように、授業計画と内容を工夫したつもりです。

キーワード /Keywords

医療問題、マネジメント、医療経済学、コスト管理、医療政策、患者満足度、医療倫理、リーダーシップ

福祉マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 今村 浩司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	福祉マネジメントに関連する専門的知識とマネジメントツールを習得する。
技能	分析解決技能	○	福祉の現場における課題を適切に抽出し、分析する力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	福祉の専門的知識に裏付けられた、高い倫理観を身につける。
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとして福祉マネジメントに関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

福祉マネジメント

授業の概要 /Course Description

社会福祉の分野では、現代社会の変遷とともに、より高度で多様化したサービスの提供が求められるようになってきた。それに応えるためには、安定的かつ効率的な組織運営、経営管理を担うマネジメント能力が必要である。さらには、福祉サービスを必要とする利用者に対して、直接的な援助活動はもとより、福祉事業の経営管理、福祉施策・制度についての知識も必要不可欠である。

そこで本講義では、社会福祉サービスの提供の実態を把握した上で、マネジメントの対象である人、専門職、組織等を中心に、社会福祉サービスにおける問題を多面的視点から捉え、分析できるための基本的な知識を習得することを目標に進めていく。

教科書 /Textbooks

特に指定なし。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「IPWを学ぶ ～利用者中心の保健医療福祉の連携～」埼玉県立大学編 中央法規 2009

「多職種連携の技術(アート) 地域生活支援のための理論と実践」野中猛著 中央法規 2014 等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
- ② 現代社会と社会福祉
- ③ 社会福祉の現状
- ④ 社会福祉の目標
- ⑤ 社会福祉サービスの実際(1) (福祉実践活動家をゲストスピーカーとして招聘予定)
- ⑥ 社会福祉サービスの実際(2)
- ⑦ 社会福祉サービスの実際(3) (福祉実践活動家をゲストスピーカーとして招聘予定)
- ⑧ 社会福祉サービスの実際(4)
- ⑨ 福祉領域における経営戦略
- ⑩ 福祉領域におけるリスクマネジメント
- ⑪ 福祉領域におけるリーダーシップ
- ⑫ 福祉マネジメントの課題
- ⑬ 福祉マネジメントの展望
- ⑭ まとめ(1)
- ⑮ まとめ(2)

上記は計画であり、講義の進捗状況によっては変更の場合もある。

福祉マネジメント【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対してのレポート、そのプレゼン50%、講義に対する参加度と貢献度50%以上を目安として総合的に成績評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高齢者、障害者、児童等を取りまく社会問題についての状況を把握し、問題意識を高めておくこと。毎回講義終了時に、当日の事後学習と次回の事前学習の内容を指示するので注意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主体的な学びを促すため、事前・事後のレポートやプレゼンを全員に課す予定である。実践的内容を理解するため、福祉活動実践家をゲストスピーカーに招く場合もある。

キーワード /Keywords

福祉マネジメント、福祉ビジネス、地域社会、社会問題、組織運営、経営管理

ビジネス中国語【夜】

担当者名 /Instructor 森田 三恵子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○				

授業の概要 /Course Description

日中経済が緊密化する中、ビジネス中国語によるコミュニケーション能力はますます重視されるようになってきています。この科目では単なる日常会話と違い、ビジネスで欠かせない中国語を段階的に学んでいきます。

教科書 /Textbooks

中国語初級テキスト 仕事のための「基礎中国語」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ビジネス中国語会話、北京駐在日記等を参考にする。
必要に応じて参考書を指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 発音の総復習、中国語による自己紹介
- ② 出迎え、姓、名の表現
- ③ 車に乗る、疑問詞による疑問文
- ④ ホテルの部屋、反復疑問文
- ⑤ 会社見学、数字
- ⑥ 人の紹介、時間の言い方
- ⑦ 電話をうける、過去形の表現
- ⑧ 出張、時間詞
- ⑨ 仕入先工場視察、方位詞
- ⑩ 社員の教育、比較表現
- ⑪ 接待、助動詞
- ⑫ 価格交渉、介詞
- ⑬ オフィスでの会話、補語関係
- ⑭ 商品検査、受身表現
- ⑮ ビジネスレター、書式等

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への参加姿勢 (40%)、終了テスト (60%) による評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

一定の中国語基礎能力も持っている方の受講が望ましいです。
失敗を恐れず、恥ずかしがらずに繰り返し発音をすることと、予習復習が重要です。
国際経営を履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんの語学力の更なる向上を期待します。

キーワード /Keywords

自治体政策【夜】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	自治体政策に関連する専門的知識を修得する。
	実践知識	○	自治体政策に関連する政策ツールを理解し、活用方法を習得する。
技能	分析解決技能	○	地域の課題を適切に把握し、解決に向けた分析を行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能	△	新たな政策やプロジェクトを企画する力を身につける。
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	自治体政策の専門的知識を活用して、地域の諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

自治体政策

授業の概要 /Course Description

国と地方自治体の関わりの変化が進む現在、自治体が企画・立案・執行する「政策」が一層重要となってきた。一方、人口減少が進み、また社会経済を取り巻く諸状況が複雑化・多様化し、さらに自治体財政の厳しい状況が続く中、地域に望ましい政策の形成に際しては様々な課題に直面せざるをえない。

こうした点を踏まえ、本授業の前半においては、自治体の政策形成等に係る手法や課題等を論じた上で、現在の政策のあり方に影響を与えている事項や今後望まれる方向性等について、事例なども踏まえながら総合的に考察する。後半においては、現在の自治体にとって喫緊の課題であり、かつ企業活動や市民生活とも密接な関わりを持つテーマに焦点を絞り、ケーススタディを交えながら具体的な政策について考察し、自治体政策を取り巻く諸課題や政策形成手法等への理解を深める。

これらを通じ、本科目のDPに掲げる到達目標に達し、自治体政策への専門性向上および実社会での応用力向上を目指す。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 真山達志 (2001年) 『政策形成の本質 - 現代自治体の政策形成能力 - 』、成文堂
 - ・ 幸田雅治・坂弘二 (2007年) 『自治体職員研修講座 政策形成・自治体法務』、学陽書房
 - ・ 中邨章・市川宏雄編著 (2014年) 『危機管理学 - 社会運営とガバナンスのこれから』、第一法規
 - ・ 『月刊 ガバナンス』、ぎょうせい
 - ・ 『月刊 地方自治職員研修』、公職研
- その他、必要に応じ、適宜授業中に紹介する。

自治体政策【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨN
【自治体政策のめざすもの】
- ② 政策形成とは
【政策形成の仕組み】
- ③ 国、広域自治体、基礎自治体の果たすべき政策上の役割
【地方制度改革、地方分権】【規制緩和】
- ④ 政策の推進主体を巡る近年の議論
【大都市制度】【広域連携】【道州制】
- ⑤ 政策の方向性を巡る近年の議論（1）
【行政改革】【公共施設マネジメント】
- ⑥ 政策の方向性を巡る近年の議論（2）
【新しい公共】【PPP】
- ⑦ 自治体政策と市民協働
【市民協働】
- ⑧ 政策に係る合意形成
【合意形成】【コンセンサス】
- ⑨ 政策研究I：地方創生関連政策（1）
【人口減少対策】【歳入確保】
- ⑩ 政策研究I：地方創生関連政策（2）
【政策推進上の課題と今後のあり方】
- ⑪ 政策研究II：危機管理政策（1）
【危機とリスク】【リスクマネジメント・サイクル】
- ⑫ 政策研究II：危機管理政策（2）
【自治体BCP (Business Continuity Plan)】【リスク・コミュニケーション】
- ⑬ 政策研究III：にぎわいづくり政策（1）
【産業政策の特徴】【観光政策】
- ⑭ 政策研究II：にぎわいづくり政策（2）
【MICE誘致】【ハード・ソフト政策の一体的展開】
- ⑮ まとめ（総合討論）

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート50%、授業の状況（質疑、意見等）50%をもとに総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて調べ、理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

理論面に加え、できるだけ直近の自治体政策の動向への理解が深まるよう、事例紹介やディスカッション等を行う。自治体政策をめぐる最新動向や履修者の関心等を鑑みた上で、授業計画について若干の変更を行う可能性がある。

キーワード /Keywords

政策形成、地方制度改革、合意形成、地方創生

モノづくり競争力の強化【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 新治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 生産や製造に関するマネジメントに必要な専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 生産や製造に関する問題点を適切に把握する能力を身につける。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 生産や製造に関する問題点を解決し、変革の道筋を提示する能力を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

モノづくり競争力の強化

授業の概要 /Course Description

わが国は資源小国であり、製造業が勝ち残るためには、モノづくりの競争力で世界に優位に立たなければならない。メイド・イン・ジャパンとして世界トップのものづくり大国だった日本は、80年代には勤勉さがもたらした高品質でその優位を保ってきたが、今やそれだけでは追いついてきている諸国に足元を脅かされてきている。この現状を踏まえ、今後モノづくり競争力をどのような方法で強化すべきかを、実務家の視点から、人材育成と工場運営のあり方、高品質のつくり込み方、生産性改善の重要性、生産技術の進化などに重点をおき、そのしくみや改善方法について事例を紹介しながら解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜プリントや参考資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「トヨタで学んだ工場運営」(海外工場へはどのように展開したのか)
雨澤政材(あめざわまさもと)著、日刊工業新聞社、2014年10月発刊、
その他はその都度指定する。

モノづくり競争力の強化【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 講義方式に加えて、DVDやプロジェクターを活用し、分かりやすい解説を心がける。
 質疑応答の時間を十分取り、理解を深めてもらう。
- ① モノづくり企業に求められる競争力
 【開発からアフターサービス】【商品開発力】【生産技術力】【工場運営能力(現場力とは)】【宣伝・販売力】
 - ② 工場管理概論
 【企業による工場の位置づけ】【工場管理の基本】【工場の持つべき要件】
 - ③ 安全・衛生管理
 【安全な作業は作業の入口】【安全・品質は企業経営成功の鍵】【労働災害防止活動】【労働疾病防止活動】
 - ④⑤ 企業の発展と人材育成
 【労務管理の変遷】【「人材」から「人財」へ】【企業風土(職場風土)づくり】【管理・監督者の役割】
 【職場の働きがいとモチベーション管理】
 - ⑥⑦ 原価管理
 【原価管理の体系】【原価構成・費目区分】【開発段階での原価改善】【製造原価の把握と改善】
 - ⑧⑨ 品質管理
 【トヨタの品質管理】【お客様指向】【停めるライン・止まる設備】【自工程完結思想】【日常管理と変化点管理】
 【品質アセスメント】
 - ⑩ トヨタ生産方式の生まれた背景
 【トヨタの歴史】【経営理念】【トヨタ生産方式とは】
 - ⑪ トヨタ生産方式の特徴
 【限りない原価低減】【TPSの2本の柱】【TPSの広がり】
 - ⑫ トヨタ生産方式の基本的な手法
 【5S】【職場の見える化】【ムダの削減・排除】【生産ラインの作り方】
 - ⑬ トヨタ生産方式の具体的な改善の進め方
 【基本姿勢】【改善の切り口】【生産仕掛けの改善】【人の動きの改善】【物の流し方～流れの改善】
 - ⑭ 人材育成～技能伝承と職場活性化の方法とその実践事例
 【標準化と技能伝授】【人材育成のしくみと道具】【ワーキングライフプラン】【職場活性化の道具とリーダーの役割】
 - ⑮ 工場における実践事例見学
 トヨタ自動車九州㈱のレクサスラインで確認(12月または1月の祝日に実施予定)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取組姿勢30%
 課題についてのレポート評価70%
 (講義の理解度・習得度30%・自分の立場や将来展望からの主張40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回の授業内容に関して、現在の自分の立場上の問題・課題と、自身で考える改善策を
 まとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

⑩⑬(7回目)と⑭⑮(8回目)は、工場見学の日程によって前後する場合があります。
 その際は、受講者のみなさんに事前に連絡します。

キーワード /Keywords

実践的統合マネジメント能力、人材育成、組織の活性化、品質管理、トヨタ生産方式、レクサスブランド

ソーシャル・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	◎ ソーシャルビジネスに関連する専門的かつ実践的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	○ ソーシャルビジネス分野での新規事業構想力を身につける。
態度	倫理観態度	○ 社会問題に関する意識を高め、社会的責任感と倫理観を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域やコミュニティの視点からソーシャルビジネスを構想する力を修得する。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

ソーシャル・ビジネス

授業の概要 /Course Description

近年、社会的課題をビジネスのスキームを用いて解決しようとする「ソーシャルビジネス」への期待が高まっている。本講義では、ソーシャルビジネスのマネジメントについて学ぶ。具体的には、解決すべき社会的課題の設定からビジネスモデルの作成までを事例やケース分析などを通じて学習する。講義では、実際にソーシャルビジネスを立ち上げ運営していくことを想定したディスカッションやワークショップを行い、知識と実践的なマネジメント力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 駒崎弘樹 『「社会を変える」を仕事にする』ちくま文庫、2011年。
- 小暮真久 『「20円」で世界をつなぐ仕事』日本能率協会マネジメントセンター、2009年。
- 上阪徹 『「カタリバ」という授業』英治出版。

その他の文献については、講義のなかで紹介する。

ソーシャル・ビジネス【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【本講義のねらいと進め方の説明】
- ② ソーシャルビジネス概論
【ソーシャルビジネスとは何か？】
- ③ ソーシャルビジネスの事例から学ぶ 1
【事例分析を通じソーシャルビジネスの活動領域や特色について検討する】
- ④ ソーシャルビジネスの事例から学ぶ 2
【成功したソーシャルビジネスの共通点を探る】
- ⑤ ミッションをつくる 1 (ケースメソッド)
【社会的課題の抽出と発見の手法】
- ⑥ ミッションをつくる 2 (ケースメソッド)
【社会的課題を解決するスキーム】
- ⑦ 事業をつくる 1 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスの事業構造】
- ⑧ 事業をつくる 2 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスにおけるビジネスモデルの特徴】
- ⑨ 中間プレゼンテーション 1
【ソーシャルビジネスプランの構築と発表】
- ⑩ 中間プレゼンテーション 2
【各自のプランの課題と解決方法を探る】
- ⑪ 利益をつくる 1 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスの顧客と収入】
- ⑫ 利益をつくる 2 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスの収益構造の特徴】
- ⑬ 社会をつくる 1 (ケースメソッド)
【ソーシャルビジネスからソーシャルイノベーションへ】
- ⑭ 社会をつくる 2 (ケースメソッド)
【社会をデザインする】
- ⑮ ソーシャルビジネスプラン・プレゼンテーション
【プレゼンテーションとディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度 (発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など) : 50%、課題の内容 (レポートなど) : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

原則として毎回事前課題を課すので、次回に授業までに準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ソーシャルビジネス、社会課題、NPO、CSR、CSV

医療経済【夜】

担当者名 /Instructor 舟谷 文男 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	医療経済に関連する専門的知識を修得する。
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度	○	地域のリーダーとして医療経済に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

医療経済

授業の概要 /Course Description

医療は人間社会にとって必須の公共的社会サービスであり、社会保障制度の一つとして重要な役割を担っている。また、医学・医療技術は日進月歩の発展をみているが、その恩恵を、いつでも、どこでも、誰でも受けられる医療システムの仕組みはどのように構築すべきか、その社会コストを誰が支払うのか、人の命を救う価格は決められるのか、医療サービスを提供する専門職種や医療施設はどのような組織構造を持つべきなのか、国民皆保険制度による経世済民の視点から、医療経済学の基本を幅広く理解させる。

教科書 /Textbooks

なし。(PowerPoint版講義資料のプリントを配布)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

厚生労働省編『厚生白書』、真野俊樹著『入門医療経済学』中公新書、的場恒孝編『医療科学入門』南江堂、厚生労働省編『国民衛生の動向』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 医療経済学概論
- ② 社会変動と医療需要・供給関係
- ③ 社会保障と医療保険
- ④ 医療サービスの値段
- ⑤ 医療サービス資源とその動向
- ⑥ プライマリケアと産業保健
- ⑦ 医療の人的資源と組織化そして労働
- ⑧ 医療保障と地域医療
- ⑨ 医療の安全管理 1【医療事故・リスク管理】
- ⑩ 医療の安全管理 2【防災・減災】
- ⑪ 医療情報システム
- ⑫ 医療評価I
- ⑬ 医療評価II・医療経済学の研究手法と論文作成の要点
- ⑭ これからの保健・医療・福祉はどうなるのか
- ⑮ 地域の保健・医療・福祉の一体化・地域包括ケア：医療経済学まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの評価(70%)、日常の授業への取り組み(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞などマスコミが取り上げる医療問題、介護・福祉問題等に絶えず関心を持ち続けること。

医療経済【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

医療は特殊な分野と捉えられがちであるが、良い医療を実現するためには、全ての事業と共通する人材管理・育成が基本であることを念頭に受講して下さい。

キーワード /Keywords

社会保障、医療需要・医療供給資源、人材管理・育成、診療報酬制度、地域医療計画、地域分析、医療安全、医療情報システム、医療評価、地域包括ケア

社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 工藤 一成 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	○ 社会保障に関連する専門的知識を修得する。
	実践知識	
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ 地域のリーダーとして社会保障に関する諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会保障

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

社会福祉から公衆衛生までの幅広い領域にわたる社会保障の制度や仕組みは、社会通念や人口構成、生活環境、格差などの文化的、社会的、政治経済的な状況によって形づくられ、変化していきます。人間や社会とは何かという根源的な問いを原点に社会保障の概念を整理し、制度についての理解を深めるとともに、社会保障に関する事業やリスクのマネジメント、地域包括ケアなど、社会保障をより良く運営する方法についても考えていきます。

教科書 /Textbooks

適宜、資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 椋野美智子、田中耕太郎著『はじめての社会保障—福祉を学ぶ人へ—』有斐閣
- ・ 埋橋孝文、大塩まゆみ編著『新・基礎からの社会福祉5 社会保障』ミネルヴァ書房
- ・ 広井良典著『定常型社会 新しい「豊かさ」の構想』岩波新書
- ・ 広井良典著『日本の社会保障』岩波新書
- ・ 見田宗介著『現代社会の理論』岩波新書
- ・ J・K・ガルブレイス『ゆたかな社会』岩波現代文庫
- ・ 立川昭二著『病気の社会史』岩波現代文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 社会保障の概念と歴史 【概念・定義とその形成史】
- ② 社会保障制度の基礎知識(1) 【現行制度や法令の体系と専門用語】
- ③ 社会保障制度の基礎知識(2) 【各種法人などの事業主体、事業内容、専門職】
- ④ 社会福祉制度の概要 【公的扶助、障害福祉、高齢者福祉】
- ⑤ 医療保険制度と医療提供体制 【皆保険とフリーアクセス、医療計画】
- ⑥ 介護保険制度とサービス提供体制 【介護保険事業計画、サービス提供主体】
- ⑦ 公衆衛生の概要 【感染症・疾病対策、保健衛生と地域づくり】
- ⑧ 医業とマネジメント 【事業経営、リスクマネジメント】
- ⑨ 介護事業とマネジメント 【事業経営、リスクマネジメント】
- ⑩ 社会保障制度改革の概要と課題 【社会福祉基礎構造改革、社会保障・税一体改革】
- ⑪ 社会保障と地域づくり 【住民・地域の役割、インフォーマルな社会保障】
- ⑫ 超高齢・少子社会、高度消費社会、格差社会の諸相【生き方、老い方、社会通念】
- ⑬ 地域包括ケアの概念と展望 【住まい、生活支援、コミュニティビジネス】
- ⑭ 海外の社会保障事情 【欧米、アジアと日本の社会保障制度の比較】
- ⑮ これからの社会保障 【総括とビジョン】

成績評価の方法 /Assessment Method

講師と受講生の議論をもとに進め、課題に対するプレゼンテーションやレポートを求めます。 日常の授業への取り組み・・・70% レポート(1回)・・・30%

社会保障【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

制度論を基点に、時事問題や事例などを課題として討議します。社会学、法学、経済学、財政学、経営学、文化人類学などの初歩的な知識があれば理解が深まりますが、日々の新聞を読み、自ら考える姿勢や知見があれば十分に履修できる内容です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障に関する制度や方法論はもとより、それらの基底にある人間や社会の本質についても考えながら、実務や事業経営、リスクマネジメント、社会のあり方などについて議論を深めていきたいと考えています。

キーワード /Keywords

社会保障制度の枠組みと実務、非営利法人の経営、コミュニティビジネス、地域づくり

産学連携と事業創造 【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 事業創造に向けた産学連携にとって必要な実践的な知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	○ 事業創造に向けた産学連携のコラボレーションの仕組みを具体的に提案できる。
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業変革を促す産学連携のコラボレーションの具体的な企画を提案できる。
	地域リーダー態度	○ 様々な地域の資源を生かした産学連携のスキームを提案できる。
	国際協調態度	
※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		産学連携と事業創造

※ 2013年度以降入学生が対象です。

授業の概要 /Course Description

知識社会へのシフトによって、わが国では1990年代後半から大学や研究機関等の知的インフラの成果をいかに効果的にビジネスに結びつけるかが重要課題となっている。そのため、行政はこの10年ほど積極的に科学政策や産業政策を展開させて「産学連携」を押し進めている。しかしながら、その現場では各担い手の認識の不足やお互いのコミュニケーション不足によって多大な困難が生じており、順調に成果があがっているわけではない。よって、本講義では産学連携による新事業開発に焦点をあて、成果をあげるためのマネジメントについて事例を踏まえながら考察する。また、産学連携の成果の1つである知財の戦略については、⑩～⑫において弁護士知財ネット九州・沖縄地域会から講師を招聘し、講義を実施する。

なお、本講義の到達目標は、①知財を意識した産学連携のスキームをプランニングできる、②将来性があり現実的な産学連携プロジェクトのテーマを探索できる、③有機的かつ実践的なチーム体制を提案できる、である。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 馬場靖憲 / 後藤晃 『産学連携の実証研究』 東京大学出版、玉井克哉
宮田由紀夫 『日本の産学連携』 玉川大学出版部
- 二神恭一 / 日置弘一郎 『クラスター組織の経営学』 中央経済社
- クレイトン・クリステンセン / ジェフリー・ダイアー / ハル・グレガーセン 『イノベーションのDNA』 翔泳社
- 玉田俊平太 『日本のイノベーションのジレンマ』 翔泳社
- 伊丹浩敬之 『経営戦略の論理』 日本経済新聞出版社
- マイケル・E・ポーター 『競争戦略II』 ダイヤモンド社

産学連携と事業創造 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①産学連携のバックグラウンド
【知識経済】【コラボレーション】【イノベーション】
- ②我が国の地域産業政策と科学政策の変遷
【技術移転】【クラスター政策】
- ③産学連携支援組織の仕組みと活動内容
【TLO】【産学連携支援組織】【コーディネート】【行政の役割】
- ④産学連携支援組織の実態と課題～クラスターマネジャーの経験から～
【チームマネジメント】【コラボレーション】【外部マネジメント】
- ⑤産学連携の実際～U教授とS社の事例から～（現場報告）
- ⑥産学連携の実際～U教授とS社の事例から～（ディスカッション）
- ⑦産学連携プロジェクトの事業化に向けた課題I（ディスカッション）
～ケーススタディ：中堅企業K社～
- ⑧産学連携プロジェクトの事業化に向けた課題II（ディスカッション）
【マーケティング】【デスバレーの克服】【事業化体制】【事業創造】
- ⑨産学連携におけるイノベーションの位置づけ
【持続的イノベーション】【破壊的イノベーション】
- ⑩イノベーションのためのスキルと人材
【ネットワーク力】【関連づけ思考】【技術者】【質問力】【観察力】
- ⑪知的財産権の基礎【特許権】【特許申請】【商標権】
- ⑫共同研究開発計約のポイント
【秘密保持契約】【基本契約】【共同開発契約】【職務発明規定】
- ⑬産学連携プロジェクトのテーマの探し出し方とその事例I
【観察力】【関連づけ思考】【トレンド】【政策】【先端技術】
- ⑭産学連携プロジェクトのテーマの探し出し方とその事例II
【観察力】【関連づけ思考】【健康】【安全・安心】【地域資源】【医学】
- ⑮産学連携プロジェクト・プランのプレゼンとまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ケーススタディに対する課題およびディスカッション（50%）
- 産学連携プロジェクトプラン（30%）
- その他の日常的なディスカッションに係わる貢献度（20%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

知的財産権に関連する講義を2コマ実施しますが、特に法律的な知識は求めません。ただし、イノベーションや商品開発（事業創造）に対する基礎的な知識を習得していることが望ましいです。また、ポーターのクラスター論、クリステンセンのイノベーション論の習得をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

産学連携や知的財産など一般的にはとっつきにくいテーマを扱いますが、できる限りわかりやすく講義を行いますので気軽に受講してください。

キーワード /Keywords

コラボレーション、イノベーション、知的財産権、産学連携、チームビルディング、デスバレー、クラスター政策、テーマ探索

公的プロジェクト・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 網岡 健司 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○				

授業の概要 /Course Description

魅力的で活力ある地域づくり・まちづくりにあたって、国・自治体等の施策や制度の単純導入あるいは企業・事業の誘致等に依存する時代は終焉しつつあり、今後は地域・コミュニティの未来を創造するため、市民（あるいは企業市民）自らが主体的に地域の資源を活用してプロジェクトを発想・企画し、事業化・運営していく意思と行動が求められている。このような地域プロジェクトは、事業目的、分野、事業主体・手法等も多種多様であるが、本コースでは、いくつかの実例等を通じて、プロジェクトを牽引するリーダー（あるいはフォロワー）としてのビジョン、ミッション、パッションを学ぶことを目標とした。

教科書 /Textbooks

必要に応じて指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アルビン・トフラー著「第三の波」、「未来の衝撃」、広井良典著「コミュニティを問い直す」「ポスト資本主義」、リチャード・フロリダ著「クリエイティブ資本論」、クリス・アンダーセン著「メーカーズ」など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① ガイダンス、地域プロジェクト講座の概観
 - ② 地域プロジェクトの実際
 - ③ 地域課題の分析、発掘
 - ④ 公的プロジェクト開発とマネジメント1 (基盤整備関連)
 - ⑤ 公的プロジェクト開発とマネジメント2 (ソフト整備関連)
 - ⑥ ソーシャルビジネス分野におけるプロジェクト開発とマネジメント1
 - ⑦ ソーシャルビジネス分野におけるプロジェクト開発とマネジメント2
 - ⑧ ICT関連プロジェクト: e-PORT構想など 1
 - ⑨ ICT関連プロジェクト: e-PORT構想など 2
 - ⑩ スマートコミュニティ創造事業(東田コジェネ事業など) 1
 - ⑪ スマートコミュニティ創造事業(地域エネルギー事業) 2
 - ⑫ 各自の地域プロジェクト構想の企画演習 1
 - ⑬ 各自の地域プロジェクト構想の企画演習 2
 - ⑭ これからの地域プロジェクトの展望: スマートキャピタル、リノベーションなど
 - ⑮ 振り返りとまとめ
- (* 各単元の順番、プロジェクト事例等は変更することがあります)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30%、課題プロジェクト(レポート40%、プレゼン30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2コマ連続の隔週講義を基本とします。
個別の地域プロジェクトの関係者等による紹介やディスカッション等を実施。
授業後には、授業の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民間企業に所属しつつ、行政、大学、NPO等との協業で取り組んできた様々な地域プロジェクトの実例や推進主体の方々との議論などを通じて実践的な内容としていきたい。

キーワード /Keywords

コミュニティデザイン、創造的都市、スマートシティ、プロシューマー、多様性と包摂性

NPO / NGO実践論【夜】

担当者名 /Instructor 平 由以子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ NPO活動に関連する専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	
	新規事業技能	○ NPO活動を立ち上げ運営するために必要な力を身につける。
態度	倫理観態度	○ 社会的問題に関心を持ち、的確な課題を抽出できる力を身につける。
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	○ NPO運営の視点から、地域における諸問題に積極的に取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

NPO/NGO実践論

授業の概要 /Course Description

本事業では、ボランティアの歴史が浅い日本においてNPOが歩んでいる現代社会と社会の課題とその実績、NPOならではの事業や新しい働き方、企業にはない運営やコミュニケーションスキルなど、NPOの現場や事例に学び、ビジネスや社会的意義や可能性について学ぶことを目的とする。また、NPO特有のコミュニケーションの取り方やリーダーシップ、チームビルディングについても学ぶ。

教科書 /Textbooks

特になし。毎回資料を準備して活用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「市民のネットワーク」市民の仕事術I・II 加藤哲夫著
 「NPOのためのマーケティング講座」長浜洋二著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション NPO概論
- ② NPOのミッションと組織の成り立ち
- ③ 「NPOと環境」 事例を通して実態と課題、可能性について学ぶ
- ④ 組織マネジメントI 「人・モノ・お金・考え方」
- ⑤ 「NPOと福祉」 事例を通して実態と課題、可能性について学ぶ
- ⑥ 組織マネジメントII 「チームビルディング」
- ⑦ 事業型NPO / ソーシャルビジネス NPOで稼ぐ
- ⑧ NGOと国際活動の実際 NGO活動に学ぶ
- ⑨ 海外事例 ゲストによる事例紹介
- ⑩ 地域の多様な主体と連携 連携によるソーシャルインパクト
- ⑪ NPOに学ぶコミュニケーションスキル 実践ワーク(1)
- ⑫ NPOに学ぶコミュニケーションスキル 実践ワーク(2)
- ⑬ NPOによる社会サービスの創出
- ⑭ NPOの社会的役割とこれからの可能性
- ⑮ 総括とふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート.....70%、日常の授業への取り組み.....30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業後には、授業の復習をしてください。

NPO / NGO実践論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活動20年になるこれまでの経験と、つながり、事例などから学び、NPOの可能性を探り、ワークを多く取り入れ楽しく学んでいきます。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、チーム、ソーシャルインパクト

基礎中国語【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識		
技能	分析解決技能		
	実務技能	◎	実用的な中国語の基礎を修得する。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

基礎中国語

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話文を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、日文中訳と中文日訳等の練習を通じて、両国語の特徴に対する理解を深める。2学期の「ビジネス中国語」を学習するため基礎を固める。なお、将来中国語検定試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も紹介し、練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語 [実用・基礎編]』 (プリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語コミュニケーションステップ24』(胡金定 他著 白帝社)
- 『中国を歩こう』(陳淑梅 他著 金星堂)
- 『中国語学概論』【改訂版】(王占華 他著 駿河台出版社)
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】(王占華 他著 駿河台出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音と複母音
3. 鼻母音・音節と音便・教室用語
4. 発音の復習とまとめ
5. 「自己紹介」(判断文・疑問文1・人称代名詞)
6. 復習と実用練習
7. 「空港で」(授受表現・存在表現・疑問文2)
8. 復習と実用練習
9. 「両替」(願望表現・数字・場所)
10. 復習と実用練習
11. 「道を尋ねる」(方位表現・移動表現・禁止表現)
12. 復習と実用練習
13. 「乗り物に乗る」(動作の進行・状態の持続・動作の実現)
14. 「宿泊」(可能表現・時点・時量)
15. 復習と実用練習

[受講者の学習経験の有無と要望に応じて、テキストや授業内容又はスケジュールを調整することがある。その際にテキストの代わりにプリントを配布する。]

基礎中国語【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の練習 50%、期末試験 50%の割合で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

企業法務とリスクマネジメント 【夜】

担当者名 /Instructor 吉浦 初音 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 企業活動に関連する法律事務とリスクマネジメントについての専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	◎ 企業法務における課題を発見し、適切なリスクマネジメントを行える能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 企業法務およびリスクマネジメントの観点から企業変革に携わることができる。
	地域リーダー態度	○ 地域のリーダーとしての自覚を持ち、リスクマネジメントに取り組むことができる。
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

企業法務とリスクマネジメント

授業の概要 /Course Description

経営倫理に関しては、CSR（企業の社会的責任）、リスク管理、コンプライアンス（法令遵守）、コーポレートガバナンスなど様々なワードが溢れているが、それらを正しく理解している経営者・ビジネスパーソンは意外に少ないのではないだろうか。本講義では、まずこれら概念の再整理を行いたい。またこれら概念は日々のビジネス取引や業務と乖離するものとして観念されてはならず、関連法令が設定する保護法益（原理）を学び、それを日々の契約や具体的業務に反映させることこそが経営倫理の実践である。よって特定の法分野にフォーカスし講義とケーススタディを通じて、経営倫理と法的リスクコントロールの重要性を体感させることを本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・高巖著『ビジネスエシックス[企業倫理]』2013年、日本経済新聞出版社
- ・マックス・H・ベイザーマン著 / 池村千秋訳『倫理の死角 - なぜ人と企業は判断を誤るのか』2013年、NTT出版
- ・塩野誠 / 宮下和昌『事業担当者のための逆引きビジネス法務ハンドブック』2015年、東洋経済新報社
- ・淵邊善彦『ビジネス法律カトレーニング』2013年、日経文庫
- ・株式会社KPMG FAS / 有限責任あずさ監査法人『不正防止のための実践的リスクマネジメント』2011年、東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 序論 - CSR・リスク管理・コンプライアンス
- ② 企業倫理とは何か(1)契約社会の諸原則とソフトロー
- ③ 企業倫理とは何か(2)ケーススタディ - 企業の命運を分けたものは何か
- ④ 取締役責任(1)会社法と企業における意思決定・組織
- ⑤ 取締役責任(2)ケーススタディ
- ⑥ 公正な競争(1)独占禁止法は何を実現したいのか
- ⑦ 公正な競争(2)ケーススタディ
- ⑧ 労務管理(1)労働市場と労働法令
- ⑨ 労務管理(2)ケーススタディ
- ⑩ コンプライアンス施策(1)リスク管理体制
- ⑪ コンプライアンス施策(2)ケーススタディ
- ⑫ M & A(1)概論 - M & Aの目的・スキーム
- ⑬ M & A(2)概論 - 契約交渉におけるリスク管理
- ⑭ グローバル化とリスク管理
- ⑮ M & A演習

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への取り組み態度（発言・質問を通じた貢献）60%、ケーススタディ事前課題20%、M & A演習（発言・提出物の内容）20%

企業法務とリスクマネジメント 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回設定されるケーススタディの題材を自らを探すことで、問題意識を持って講義へ臨んでください。法令や取引に関する法的知識・経験は学生それぞれです。経験値の少ない学生も躊躇することなく、疑問・質問を投げかけることで講義に貢献してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ピーターFドラッカーは著書『マネジメント』の中で「真摯さ (Integrity) に欠けていたのでは、いかに知識があり才気があり仕事ができようとも、組織を腐敗させ業績を低下させる。」(上田惇生訳) と述べています。欧米ではコンプライアンス施策を「Integrity Program」と呼ぶように、「真摯さ」の実現がコンプライアンス (法令遵守) です。

ビジネススクールでこれら概念や法令を学ぶことで、よき経営者・マネージャーとしての資質を磨いていただきたいと思います。

キーワード /Keywords

公平性 (Fairness) 、保護法益、説明責任、臨床・予防・戦略法務

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】

各グループ担当の専任教員による指導

【研究プロポーザル（研究計画書）作成】

⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各週の授業内容を生かして、各自が研究プロポーザルを仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。
具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。
なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

- ①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導
【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各週の授業内容を生かして、各自が研究プロポーザルを仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

- ①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導
【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
各グループ担当の専任教員による指導
【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各週の授業内容を生かして、各自が研究プロポーザルを仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】

各グループ担当の専任教員による指導

【研究プロポーザル（研究計画書）作成】

⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各週の授業内容を生かして、各自が研究プロポーザルを仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

- ①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導
 【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】
 各グループ担当の専任教員による指導
 【研究プロポーザル（研究計画書）作成】
 ⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各週の授業内容を生かして、各自が研究プロポーザルを仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】

各グループ担当の専任教員による指導

【研究プロポーザル（研究計画書）作成】

⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各週の授業内容を生かして、各自が研究プロポーザルを仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】

各グループ担当の専任教員による指導

【研究プロポーザル（研究計画書）作成】

⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各週の授業内容を生かして、各自が研究プロポーザルを仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	主体的に討議に参画し適切な知見を提供できる能力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	実践的な研究テーマについて現実的な計画書を作成できる能力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションI

授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションとは、討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生からみると教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。巡回後の授業は、各グループ担当の教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑭ 各専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じたテーマ提供によるディスカッション】

各グループ担当の専任教員による指導

【研究プロポーザル（研究計画書）作成】

⑮ 学生による研究プロポーザルの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各週の授業内容を生かして、各自が研究プロポーザルを仕上げていくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎	的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究テーマに相応しい適切な思考・発想方法および分析手法を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 的確な課題設定および課題解決を可能とする能力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

グループ・ディスカッションII

授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想方法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループディスカッションのねらいと意義】
- ②～④ 課題討議1
【ディスカッションによるテーマ設定】
- ⑤～⑧ 課題討議2
【文献調査およびディスカッション】
- ⑨～⑫ 課題討議3
【調査研究手法の学習およびその適用】
- ⑬～⑭ 報告書作成
【議論を元にした報告書作成】
- ⑮ 発表会
【プレゼンテーション及びディスカッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容を生かして、グループメンバーが主体的に研究成果物を仕上げていくこと。

グループ・ディスカッションII【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 森永 泰正 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 山口 徹也 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 吉浦 初音 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I【夜】

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 田田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ 研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I【夜】

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 永津 美裕 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑬ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑭ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40％）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60％）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究I【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識		
	実践知識	○	研究成果のイメージを具体的に提示し、研究目的と背景を的確に説明する力を身につける。
技能	分析解決技能	◎	研究テーマに応じて先行研究や文献調査を適切に行う力を身につける。
	実務技能		
	新規事業技能		
態度	倫理観態度		
	企業変革態度		
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究 I

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iにおいては、各自の研究テーマに応じて先行研究や理論に関する文献調査を十分に行ったうえで、分析のフレームワークの検討を行う。また、必要に応じて統計調査、アンケート調査、ヒアリング調査などを実施したうえで、プロジェクト研究骨子を成果物として完成させる。

なお、プロジェクト研究の指導の中心は、原則的に学生の意思に基づいた専任教員等（主指導教員）1名があたる。ただし、学生が幅広い視点から問題探究を行えるように、副指導教員の指導を適宜受けられる体制とする。副指導教員は専任教員及び特任教員の中から主指導教員と学生が相談した上で、マネジメント研究科委員会決定する。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イン트로ダクション
【グループ・ディスカッションI、IIの成果物の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～③ 研究テーマの検討・決定
【現実的な課題に沿った検討・ディスカッション】
- ④～⑤ 文献調査に基づいた検討
【先行研究】、【理論】
- ⑥～⑦ 研究方法、推進体制、仮説の検討
【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑧～⑩ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪～⑭ プロジェクト研究骨子の作成と検討
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究骨子の完成
【主指導教員への報告】

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究骨子（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト研究I 【夜】

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究骨子を仕上げていくこと。
グループ・ディスカッションIIを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODククション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 森永 泰正 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチヨン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 山口 徹也 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODククション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 吉浦 初音 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチヨン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチヨン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
 プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODククション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチヨン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 永津 美裕 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチヨン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODククション
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords

プロジェクト研究II【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○	○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 重要性の高い問題を設定し、適切な文献調査・データ収集を行う力を身につける。
技能	分析解決技能	◎ テーマに沿った適切な実証・論証を行い、説得力のある説明をする力を身につける。
	実務技能	
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

プロジェクト研究II

授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究IIにおいては、プロジェクト研究Iの成果物であるプロジェクト研究骨子に基づき、一定水準の品質が確保されたプロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）の完成を目指す。

各自による各種調査（統計調査、文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査、フィールドワーク等）結果や分析結果について、主指導教員等とのディスカッションを重ねながら、プロジェクト研究報告書（研究レポートまたは論文）を作成する。そのうえで、仮説の設定や分析フレームワークなどは適宜見直しを図る。

教科書 /Textbooks

初回時に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン
【プロジェクト研究骨子の問題点、改善点の整理】、【スケジュールの確認】
- ②～④ リサーチ・クエスチヨン（研究課題）の再検討（問題意識の再確認）
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】、【仮説の設定】
- ⑤～⑭ 調査研究の実施と報告（進捗状況の管理）
【質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ プロジェクト研究報告書の完成
【主指導教員への報告】

* 口頭審査は別途行うものとする

成績評価の方法 /Assessment Method

研究の姿勢（40%）と成果物であるプロジェクト研究報告書（60%）によって総合的に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

研究指導を生かして、学生が主体的にプロジェクト研究報告書を仕上げていくこと。
 プロジェクト研究Iを履修済みのこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト研究II 【夜】

キーワード /Keywords